

長 薬 同 窓 会 報

Alumni Association

*School of Pharmaceutical Sciences*

*Nagasaki University*

第 50 号 (2010年)

# 目 次

同窓会長挨拶 .....	伊豫屋偉夫(昭41) .....	1
薬学部長挨拶 .....	畑山 範 .....	2
平成22年度長薬同窓会定期総会・講演会・懇親会 .....		3
平成23年度長薬同窓会総会開催のご案内 .....		4
追悼 大河内美代子さん .....		5
	高良真也(昭57), 森田宏樹(昭59), 山内秀樹(平2), 中田一成(平9), 大山 要・山口 隆(平12), 鈴木秀明(平14)	
支部だより .....		9
	関東支部, 近畿支部, 広島支部, 山陰支部, 福岡支部浦陵会, 大分支部, 佐賀支部若楠会, 熊本支部, 鹿児島支部, 長崎県北支部, 長崎県央支部, 長崎支部くびる会	
クラス会および近況だより .....		19
	峰 唯信(昭26), 服部俊明(昭28), 峯 武磨(昭30), 小林 浩(昭32), 熊本公子(昭33), 木下敏夫(昭35), 園田フミ(昭36), 永田了一(昭36), 荒木弘章(昭37), 岡 邦彦(昭38), 松村祐子(昭40), 平山文俊(昭41), 井上一顕(昭42), 富永義則(昭44), 松本逸郎(昭47), 西垣敏明(昭47), 松本逸郎(昭47), 木野省三(昭50), 鈴木潤子(昭55), 川邊智子(昭56), 中嶋幹郎(昭57), 高良真也(昭57), 伊藤 潔(昭59), 森川 隆(昭62), 白川奈奈子(平1), 井手指月(平2), 池田理恵(平13), 宮元敬天(平20), 黒川裕美(平22), 和田 怜(学部3年), 和田光弘(平4)	
クラブOB会だより .....		52
	野球部, 硬式庭球部, 軟式庭球部	
庶務報告 .....		55
	物故者氏名, 学内記事 .....	55
長薬同窓会役員名簿 .....		57
長薬同窓会支部一覧 .....		58
会計報告(平成21年度決算, 平成22年度予算, 監査報告) .....		59
新刊図書のご紹介 .....		62
同窓会事務局だより .....		表Ⅲ
編集後記 .....		表Ⅲ



## ご挨拶

会 長 **伊豫屋 偉夫** (昭41)

今年度の総会は、12年振りに蘇った佐賀支部「若楠会」の皆さんのご協力により、佐賀市で多くの会員の皆様の参加を得て開催することができました。厚くお礼申し上げます。

また、この総会の開催に併せ、佐賀でクラス会を開催していただきました各学年の皆様にも心からお礼申し上げます。

さて、薬学部6年制が始まり今年で5年目に入り、いよいよ今年5月から学生の薬局・病院での実務実習が始まりました。関係しておられる会員の皆様も多いかと思いますが、多くの立派な薬剤師が社会に出てきますようご尽力をお願いします。

ただ、今年3月の長崎大学薬学部の卒業式に同窓会長として参列させていただいたのですが、4年制の卒業生のみで40名と昨年までの80名の半分で、会場が半分空いて、少し寂しい感じがしました。あと1年はこの状態が続くのだなあとと思うとともに、同窓会の会員も2年間は半数に減るのだなあと実感させられました。

現在、長薬同窓会の会員は約4300名で、全国各地でいろいろな職業に従事し、国民の健康の増進と環境の保全等に日々活躍しておられます。同窓会は皆さんの参加があって成り立っています。先輩・後輩が一堂に会し、同じ大学を卒業したということで、心を開いて情報交換するこ

とができる総会に必ず顔を出すよう、是非周りの会員にも呼びかけていただきますようお願いいたします。特に、平成卒の会員の皆さんの参加をよろしく願います。

長薬同窓会のホームページも伊藤 潔幹事(昭59)の全面的なご協力により、同窓会に関する最新の情報を提供していますので「是非」長薬同窓会」でアクセスしてみてください。また、毎年12月末に会報の発行を行うことにしていますので、各支部の取り組みや各学年のクラス会の動向等もE-mailで事務局まで情報提供をお願いします。

なお、今年は3年に1度の名簿を発行しました。氏名、住所、勤務先等変更のあった方はその都度事務局までご連絡をお願いします。

次に、訃報ですか、30年近く同窓会事務局員として同窓生並びに学生のお世話をさせていただきました大河内さんが8月24日にお亡くなりになりました。私も葬儀に参列しお参りしてきましたが、多くの同窓生から当時の思い出を綴った甲電が沢山寄せられていました。ご冥福をお祈りいたします。

長薬同窓会を核にして、同窓生を取り巻く大きな環境の変化に的確に対応し、同窓生が各々の立場で大いに活躍し発展していかれますことを祈念してご挨拶といたします。



## 長薬同窓会の皆様へ

長崎大学薬学部長 **はたけ やま すずみ**  
**畑 山 範**

長薬同窓会の皆様におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。

薬学教育6年制がスタートして、早くも4年が過ぎました。この教育制度改革にあたり、長崎大学薬学部は、薬剤師と創薬研究者の両者を育成することを基本方針として、創薬研究者の養成を主とする4年制課程と薬剤師養成を主とする6年制課程を併置しました。4年制課程では、この3月に最初の卒業生が出たばかりであり、そのほとんどは大学院に進学しております。一方、6年制課程では、事前実習、CBT、OSCE、そして教育の質の保証のための自己評価トライアルも何とか終え、この5月から病院と保険薬局での長期実務実習も始まっております。この新しい薬学の教育システムは、平成24年に修士課程の上に博士後期課程と6年制学部の上に博士課程が出来た時点で一応完成を迎えることとなります。

以下に、薬学部が現在取り組んでいることについて簡単に紹介させていただきます。まず、薬剤師教育に関しましては、平成19、20年度の2年間行いました概算要求事業の「離島・僻地医療に貢献できる薬剤師の養成教育プログラム」に引き続き「在宅医療と福祉に重点化した薬学と看護学の統合教育とチーム医療総合職養成の拠点形成」と題したプロジェクトが文部科学省の戦略的大学連携支援プログラム（いわゆる連携GP）に昨年度採択され、2年目を迎えているところであります。本連携事業の中で、今後益々高まる在宅医療のニーズに対応すべく、在宅医療の現場で患者が必要としている様々なケアに対応できる臨床能力を身につけた薬剤師を養成するため、長崎県立大学と長崎国際大学と連携し、薬学と看護の基礎的な知識と技能の共通化を図るチーム医療教育を展開しております。

一方、4年制学科の創薬研究者養成教育に関しましては、長薬協会の解散を機に、その基本財産をもとに下村 脩先生のお名前を冠した「長崎大学薬学部下村 脩博士ノーベル化学賞顕彰

記念創薬研究教育センター」を設置することが決定しました。これによって、創薬研究において世界で活躍できる人材養成の環境作りを強化します。既に下村先生から特別顧問にご就任いただくことを了承いただいております。

最後に、この1年での主な異動について報告いたします。まず、昨年10月に衛生化学研究室に淵上剛志助教が新たに加わり、11月には、連携GPの有期雇用職員として水野恭伸准教授が着任しました。さらに、本年1月に、中村純三教授の後任として西田孝洋准教授が教授に昇任し、薬剤学研究室を主宰しております。2月には、長崎大学が推進している「地方総合大学における若手人材育成戦略」のテニユアトラック事業に関連して村松 涉助教が着任し、薬品合成化学研究室の尾野村 治教授と協力して創薬化学研究を行っております。3月には、昭和48年から長きにわたり研究、教育において薬学部を牽引していただいた薬品生物工学研究室の芳本 忠教授が定年を迎えられ、ご退職しました。芳本先生には、学部長として薬学部の組織運営にも重責を担っていただきました。現在、摂南大学理工学部生命科学科長として研究、教育、組織運営に多忙な日々を過ごしておられます。また、3月に、薬化学研究室内の袁 徳其准教授が神戸学院大学に教授として転出し、4月には、麓 伸太郎助教が薬剤学研究室の准教授に昇任しました。5月には、連携GPの水野恭伸准教授が退職しましたが、6月から手嶋無限准教授が新たに連携GP有期雇用職員として加わりました。そして、7月と8月に、薬化学研究室と分子薬理学研究室にそれぞれ大庭 誠准教授と松永隼人助教が着任しました。このように、本薬学部では人事異動が活発に行われております。このことは教育と研究の活性化にとって非常に好ましいと思われれます。

以上、長崎大学薬学部の現況を簡単に述べさせて頂きましたが、同窓会の皆様には、薬学部のさらなる発展に向けて、御支援、御高配を賜りますようお願い申し上げます。

# 平成22年度長薬同窓会 定期総会・講演会・懇親会

本年度は、佐賀支部（藤戸 博支部長）のお世話で、平成22年6月26日(土)にホテルニューオオタニ佐賀で開催されました。総会に先立ち特別講演会も開催され、約110

名の同窓会会員のご参加により、無事終了いたしました。講演会、総会、懇親会の模様を一部ご紹介いたします。



受付の様子



溝上雅史氏 特別講演



総会の様子



長崎支部くびろ会長 来年度総会のご案内



薬学部長ご挨拶



乾杯の音頭 江口 紳氏



祝舞の披露 大坪美穂氏



懇親会



懇親会



懇親会



懇親会



万歳三唱 河野健太郎氏

# 平成23年度長薬同窓会 総会開催のご案内

**期日** 平成23年 6月4日(土)

**場所** 長崎全日空ホテルグラバーヒル

〒850-0931 長崎市南山手町1-18 TEL: 095-818-6601(代)

万障お繰り合わせの上、多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。



## 追悼 大河内美代子さん

### 高良ちゃん，昭和は何年まで？

高良 真也（昭57）

学生時代，気がついた時には大河内さんはもう同窓会室にいらっしやいました。当時同窓会室は講義棟の2階，大講義室の横にありました。良く陽のあたる部屋で事務をとりながら，我々学生を温かく迎え入れて下さいました。薬学祭では美味しいぜんざいを作り振舞っても下さいました。私達との関係は学内だけにとどまりませんでした。一番に思い出されるのは，冬場のイベントであったスケートでしょうか。長崎スポーツセンターのリンクでスケートに興じ，その後は思案橋の「江戸善」というコースでした。中国大陸の大連で幼少期を過ごされた大河内さんは，スケートが大変お上手で，マイ・シューズを携えて私達を連れて行って下さいました。ご自分はその人には動かれないのですが，ひとたび滑り始めたならばその一つひとつのストロークの長く美しいこと。さらに事もなげにバックして見せるのでした。ほとんど経験のない長崎の人間からすると優雅の一言でした。そして，慣れないスケートで疲れた身体を待っているのが，江戸善のから揚げでした。江戸善の2階の部屋で本当に腹いっぱいの中から揚げとビールを飲み食いさせていただきました。学生はもちろん大河内さんも皆が笑顔で楽しい時間でした。後日お聞きしたところでは，ご家族でもよく江戸善を利用されていたそうです。学生の中には私も含めお家の方にご厄介になった者も沢山います。中にはご主人の下着をお借りした者までいて，若気の至りとはいえご迷惑だっただろうと反省しております。卒業式の後の学部内での懇親会の準備を一人でされていましたが，ご自身は表に出ることはありませんでした。それは，同窓会の理事会や総会でも同じでした。総会の集合写真に大河内さんの姿がないのは今更ながら残念です。総会の受付での大河内さんの対応はまさに神業で，年に1度会うか会わないかのご高齢の同窓の方々に，ご本人が名乗られる前にお声をかけて笑顔で名札を差し出されていました。同窓会の総会はもちろん，学部の100周年が盛会裏に執り行われたのも大河内さんの力添えによるところ

が大きかったのではないかと個人的には思っています。

100周年を期に建てられた同窓会館の1階に同窓会室は移りましたが，相変わらず行方不明者を出さないようにと，日頃からあちらこちらに連絡を入れ確認をされていました。またその基本として人間関係を大切にされ，孤独な学生をできるだけ作らないように常に気にかけておられました。留学生や他大学・他学部からの入学者(大河内さんは愛情をこめて「外様」と呼んでいました)には，同窓会室で救われた者も少なくなかったのではないのでしょうか。そんな学生からは卒業後も連絡やお招きがあり，あちこち顔を出していらっしやいました。同窓会室の壁に貼られた葉書や手紙，写真を見れば，皆がどんなに大河内さんを慕っていたのかがわかります。そして大河内さんは，その一人ひとりをまぎれもなくしっかりと覚えていて下さいました。病に倒れられてから長い間病院・施設のベッドの上でしたが，長崎への出張，里帰りの折やクラブのOB戦の後などに顔を見せる卒業生を非常に喜んで迎えられていました。「あそこの夫婦は子供いないけど仲良いのよ」「あの子とこの子は学生の頃仲良かったのに」などと，元気な頃と同じように話をして下さいました。また，倒れられてすぐの頃は，「会報はちゃんとできるかしら」「名簿に不備はないかしら」と心配しじれったそうにされていました。大河内さんが倒れられたのも，同窓会の情報を管理しているパソコンの移行に伴うストレスが一因となっていたのではないかと思います。従来の事務を遂行しながら，移行後のデータのチェックをほとんどお一人でなさっていたのです。私が大河内さんから聞いた最後の言葉は「高良ちゃん，昭和は何年まで？」でした。きつと訪ねてくる学生の卒年次や年齢を計算するために確認されたのでしょうか。いつまでも気持ちは「同窓会のおばちゃん」でした。お葬式の遺影は私達が知っている穏やかな笑顔でした。もう一度「大河内さんを囲む会」を開きたかったのですが，それは叶わないものとなりました。

## 大河内さんの思い出

森田 宏樹 (昭59)

大河内のオバチャンは、叱咤激励の人だった。

初めて「同窓会室」に行ったのは、いつだったのだろうか？

「雑炊があるから食べてゆきなさい」だったろうか、誰かに連れて行ってもらったのだろうか。ハッキリとは覚えていないのだけれど、いつのまにか、「同窓会室の住人」になっていたのだった。大河内さんにお世話になった方は皆、同じような出会いだろうと思う。

「たまには布団を干しなさい！太陽に当てると15分で殺菌ができるから、手すりに干したら1/4面ずつ、それぞれ15分、1時間で全部干せるから」と教えられたことは、いまだに覚えている。

現在でも、自宅で布団を干すときには、必ず大河内さんを思い出しながら「15分、15分」と唱えて、布団を裏返したりしている。「15分で殺菌」の根拠は、いまだ不明なのだが。

真面目でも優秀でもなかった学生である私は、悩みや挫折感をたくさん抱えていた学生だった。若い学生の悩みなど、すっかりオジサンになってしまった今から考えると、取るに足らないつまらないことも多いのだが、そのようなつまらない事でも大河内さんは、真剣に叱ったり、励ましてくれたりした。それはまさに「叱咤激励」であって、当時の私がヨロヨロしながらも大学生活を通

過できたのは、大河内さんの叱咤激励のおかげであると思う。

翻って現在の自分を考えると、当時の大河内さんに近い年齢になりながら、若い人の悩みや挫折に無関心になることなく、同じように叱咤激励出来ているものだろうか。

「ご恩返し」はもうできないけれど、そして、大河内さんには遠く及ばないけれど、若い人を叱咤激励してゆくのが、頂いたことを「ご恩送り」することになるのではないかと考えている。

大河内さんありがとうございました。心からご冥福をお祈りいたします。



## 追悼 大河内さんへ

山内 秀樹 (平2)

こんな訃報を今年のうちに聞くとは思ってもみなかった。8月24日夜、同じ天草在住の木山雄一先輩(昭59)から突如電話があった。「大河内さんが亡くなったぞ。」

木山先輩の言われるまま同窓会のホームページを開いてみると、8月24日付のニュースとして当日早朝の大河内さん逝去の一報が載っていた。これを見て何の言葉も出なかった。悲しいはずなのに涙も出なかった。ただ呆然とするばかりであった。7月に薬学部の同期(入学)の同窓会が長崎であり、同期の森川夫妻が大河内さんに会ったときには元気にしていたと言っていたのに……。秋の連休になったら、また大河内さんに会ってみようと思っていた矢先の訃報！今となっては故人を思い出すことしかできない自分が悔しいばかり。

大学時代、院生時代のみならず、社会人となってからも大河内さんにどれほど甘えて、迷惑をかけてきたろうか。その度に大河内さんは常に笑顔で優しく、時には厳

しく励ましてくれた。就職活動がうまくいかないときも、自動車免許を取るのがうまくいかないときも常にそうであった。最初の就職をした後も相談にのってくれたこともたびたびであった。その度によく言われたものであった。「あなたは(薬剤師の)ライセンスをもっているのだから。」と。大河内さんには自分が一番迷惑をかけてきたと思い恥じ入っている。

こういう理由でその日が来たならぜひともそうしようと思い、結婚式には真っ先に招待状を出し快く来ていただいたことに深く感謝をしているし、なすべきことを成し遂げたという人生上の達成感を深く感じている。

そのような第二の母と言うべき人の訃報を目の当たりにしながら、お通夜にも葬儀にも行けなかったことは一生の痛恨と言うべきであろう。後日(長崎おくんちの最終日)、グーグルマップをたよりに大河内さんのご自宅を訪ね、ご遺族の方に御仏前を託し、御冥福を祈らせて

いただいた。もはや大河内さんは天国へ旅立たれ、天国から常に見ておられる。

よって故人に対して恥ずかしいことは決してできない。正直、自分も社会的には正常な生活を送っているとはい

えない。それでも生前に受けた励ましや故人の思い出を糧とし、とことん生き抜くことが故人に対する最高の供養と思うのである。

## 大河内さんを偲んで

中田 一成 (平9)

傍らにある6冊のアルバム - 平成5年4月から始まるこれらには、私の長崎での6年間の思い出が詰まっている。薬学祭や九葉連といったイベントに加え、日常の学生生活がそこにある。しかし1000枚を超える写真の中で、意外なことに大河内さんとの学生時代のショットは唯一、大学院修了間近、歓送迎会直後の平成11年1月26日撮影の1枚のみであった。その中で大河内さんは3つの学年にまたがるメンバーに囲まれ微笑まれている。

「初めて見た時、あんたは“ハチマキ”をして肩で風をきって歩いとった！」という何度が聞かされた言葉を手掛かりにアルバムをめくる。大河内さんが私を“認識”したのは、おそらく学部2年の薬学祭(平成6年11月)の時ではなかったか。野球部バザーのメンバーで“バンダナ”をしている写真がある。やや生意気にも写った様だ。

最初に“目を付けられて”しまった私であったが、その後は本当にかわいがられ、何かと目を掛けていただいた。「みんなで秋刀魚を焼くで!」「今度はうなぎをやるか!」「こうした時にあんたに声を掛ければみんなが動く。」「みんなへ号令頼むわ!」とよく言われたものだ。私は必ずしもこの言葉に値するような人間ではない。周りにいてくれた同級生や後輩達に恵まれたこともあって、その様に写っていたのか。あるいは初めに見た“生意気”な私を、そういった形で鍛えあげてくれていたのかとも思う。

そのような私も、ある時期長崎を途中で去ると言い出

したことがあった。「癩癩を起こさずに、もうちょっと頑張ってみなさい。」「みんな、あんたのことはようわかっているよ。」「先輩も後輩もあんたを応援してくれている。」そう励ましてくれたのが大河内さんであった。そのおかげで平成11年3月、無事大学院を修了した上で、胸を張って長崎を去ることが出来た。どういう形にせよ、一時の感情で人生を決めてしまわなかったことは本当に良かったと、大河内さんに心から感謝している。

卒業後、野球部OB会への参加や仲間の結婚式で長崎を訪れた際にも、自然と同窓会室へと足は向った。私が武田薬品にMRとして内定した時には、「武田にはこういう人が先輩でいるよ。」「MRではこういう先輩がいる。」と多くのエピソードをお話してくれた。卒業後訪れる同窓会室、いつものようにそこには大河内さんがいた。社会人としての自分の活躍を聞いて欲しかった。平成14年私の結婚披露宴にも新郎新婦恩師として参列いただいた。先に結婚報告に長崎を訪れた平成13年8月には私に縁のある在校生を集め祝福してくれた。その時の同窓会室での最後の写真 私の両肩に手を添えて、変わらぬ微笑の大河内さんがいる。改めてこうして見てみると「頑張んなさいよ!」そう言ってくれている気がしてならない。

今の私に通じている道は大河内さん無くしてあり得ない。だからこそ私はこの自分の人生を精一杯直向に生きたい。それが大河内さんへの恩返しだ。大河内さん、今度また、そしてこれからも報告にいけますね。

## 大河内さんとの思い出

大山 要 (平12)  
山口 隆 (平12)

大河内さんとの出会いは学部2年生のときで、所属していた野球部の先輩方に同窓会室に連れて行かれたのがきっかけだった。同窓会室に入ると、「おう、君たちが野球部の新人は」とあの元気な声が出迎えてくれたのを今でもよく憶えている。初めの頃こそ恐縮していたが、誰でも懐に入れてくれる大河内さんの人柄に誘われ、我々が同窓会室でくつろぐ時間は自然と増えていった。

同窓会室では恋愛ネタなどの下世話な話題から、真面目な時事問題・歴史まで豊富な話題が繰り広げられ、大いに盛り上がった。特に戦中・終戦時の中国での大河内さんの体験談には、非常に驚かされ、如何に激動の時代を生きてきたのか、そして月並みだが今がどれだけ恵まれているのかを思い知らされた。また、大河内さんからは食事をご馳走になる機会も多く、「要、隆、鳥食べに行

くよ」,「今日はラーメン・餃子に行こう」と誘われ行ってみると,“鳥”・“天狗党”で食べきれないくらいの料理が振る舞われ,お金のない我々学生にとっては懐を気にせず,お腹一杯食べられる至福の時間となっていた。大河内さんは非常に面倒見がよく,就職の世話をしてもらった卒業生も数多くいることと思うが,祖国を遠く離れている留学生にも温かく「これは留学生が喜ぶから」と同窓会館の倉庫には留学生用の布団・家具・電化製品が山積みされていた。まさに,学生の母のような存在だった。

大河内さんが病に倒れた直後のお見舞いでは,いつもの元気なお姿とのギャップに涙したが,その後は驚くほど回復され,一昨年我々が病院にお邪魔した際には,昔話に花が咲き楽しい時間を過ごさせていただいた。お元気な姿に安心し,これからも見舞いに行く機会があると

思っていたが,これが今生の別れになるとは思ってもいなかった。

葬儀は会場に入りきれないくらいの参列者で,大河内さんを慕う多くの卒業生で埋め尽くされていた。笑顔の遺影をみると,あの元気な声が鮮明に思い出され,胸が熱くなった。大河内さんは我々の学生時代の一つの象徴であり,過ごした時間は生涯忘れえぬ思い出となるだろう。

そしていつの日か,大河内さんが大好きだったモンゴルの大草原で大の字になって,ご冥福を祈りたい。そして,そのときは大河内さんの言葉を思い出すことだろう。

「くよくよ悩むな!一度モンゴルの大草原で満天の星空を眺めてみなさい。今の悩み事がちっぽけなことだよくわかるから」

## ありがとう,大河内さん

鈴木 秀明(平14)

8月24日,大河内さんの訃報が届きました。あまりに突然の知らせでした。というのも,妻の実家(佐世保)への帰省を兼ねて,亡くなる3日前に入院なさっている介護施設までお見舞いに伺っており,学生時代の懐かしい話をする事ができたので,次の帰省時にまた会えるだろうと思っていました。今でも,長崎に帰ると大河内さんにまた会えるような気がしてなりません。僕にとっては長崎でのお母さんのような存在であった大河内さんとの思い出を振り返りたいと思い,今回寄稿することにしました。

僕が大河内さんに始めて会ったのは,入学間もない頃でした。所属していた長楽野球部の田中先輩に連れられて,同窓会室に行くと,声が大きく,何ともパワフルなおばさんが現れました。そして,僕が兵庫県川西市出身であることを知ると,「あーあんたが川西から来た子ね!」と親しげに接してくれたのが,大河内さんとの出会いでした。大河内さんの息子さんご家族も偶然川西市在住だったので,新入生の名簿に「川西市」とあったのを見て,どんな学生が来るのか気にしてくれていたそうです。

それからは,大河内さんがいつもいらっしゃった同窓会室によく通っていました。同窓会室には食べ物常備されていて,お腹を空かしては同期の川端君と一緒に大河内さんを訪ねて,お菓子をもらって食べていました。いつ伺っても大河内さんは温かく迎えてくれ,大河内さんに大学の事や私生活の事等,いろいろな話をしながら,お菓子と一緒に元気をもらっていたような気がします。優しいだけではなく,時には叱られることもありましたが,その時は自分の親でもないのに,何でそんなことを言わ

れるのだろうと思っていましたが,後から考えると,叱られて良かったと思うことばかりでした。孫ほど年の離れた私が社会に出た時に困らないようにという思いから,優しいだけではなく,時には厳しく接してくれたのだと思います。

また,国家試験前や,就職が中々決まらなかった時など,不安を感じている時にはいつも大きな声で励ましてくれました。大河内さんの存在が私の心の支えとなり,長崎での学生生活を楽しく,有意義にしてくれたのだと思っています。

東京に就職が決まり,卒業式の日に関係を伴って大河内さんにお別れの挨拶をして,長崎を後にしました。6年間住んでいた長崎を離れるのはとても寂しい気持ちでしたが,最後まで笑顔で送りだしてくれた大河内さんに寂しい顔を見せまいとぐっと堪えたことをよく覚えています。

会社に入ってお金を稼ぐようになったら,今まで御世話になった分恩返ししないといけないと思っていた矢先,大河内さんが倒れたとの連絡を受けました。あまりに突然の知らせに,唯々茫然とするばかりでした。あれから約6年間,闘病中に何うと学生時代のように,いつも嬉しそうに話してくれました。

あの笑顔を見ることができなくなると思うと本当に寂しいですが,これから先は天国から見守ってくれるものと信じています。僕が弱音を吐いていようものなら,「鈴木,しっかりしろー」と大きな声が聞こえてきそうです。だからこれからも大河内さんに見守られながら,自分の人生を一生懸命頑張っていきます。長い間,本当にお疲れ様でした。そしてありがとうございました。

# 支 部 だ よ り

## 関東支部

支部長 谷 覺（昭42）

平成22年度の関東支部総会は7月3日(土)都市センターホテルで、30余名の参加を得て開催されました。伊豫屋会長には来賓として挨拶をいただき、椋島幹事には長崎大学の近況をお話いただきました。総会後はお酒も入り、あちこちで歓談の輪が出来て旧交を温めました。本年度は例年に比べ、若い人の参加が多かったように感じました。

総会の前に、「同窓生の近況報告 - My work & my favorite - 」というテーマで支部会が開催されました。平成9年卒の中田一成氏には「あの頃とMRとしての今」、昭和62年卒の加藤恵介氏には「6年制薬学と有機化学」、昭和60年卒の原 正朝氏には「連休時のアメリカ研修報告」、昭和42年卒の赤神征子さんには「絵を描くことの喜びと苦しさ」、昭和30年卒の森田和之氏には「地球一周 被爆証言の航海」について、それぞれお話を伺いました。皆さん、趣向を凝らしたお話で、会場をうならせました。関東支部には多くのユニークなお仕事をされている方が沢山いらっしゃいますので、是非そのようなお方のお話も聞きたいと思っています。

関東支部の活動としては、従来から続いている「ゴルフの会」や、「若手の会」も活動を続けていますので、是非多くの方が参加されることを望みます。

支部総会の2ヵ月程前の5月15日、長崎大学主催の東

京オフィス開設記念公開講演会が東京国際フォーラムで開催され、関東支部の幹事を中心に関東支部からメールでの案内を受けた人が何名か参加しました。ゲスト・スピーカーは寺島実郎氏と原 丈人氏で、これだけ聞いても十分価値のある含蓄に富んだお話でした。長崎大学の頑張りを実感できる企画でした。

さて、同窓会を活発にする試みはなかなか難しく、長年、同窓会運営に携わってこられた方にお聞きしても、直ぐに妙案が出てくることは先ずありません。そうかと言えば、長く活発に運営されている団体もあることですから、方法が全く無い訳でもないと思います。曰く、利害が一致すると続く、曰く、楽しいとたくさん集まる、曰く、有用な情報が得られると同業者が集まる等です。救心製薬の故堀支部長に頼りっきりだった時代に比べると現在は一応独立した運営を行っている点において、少しは進歩していると思っていますが、こと支部総会においては、往時の方が活発だった様な気がします。その理由の一つは、日本の薬業界が大きく様変わりしたことにあるように思います。往時は参加者がほとんど製薬企業の方であり、情報交換の場になっていたように思います。しかし、薬業界も規制緩和などで国際的な競争に曝されるようになると、(現在でもそうですが)合併が繰り返され、また、研究部門の縮小などで、製薬会社が厳しい状況になると、大学入学者に影響を与え、ひいては同窓会構成員の職種にも変化が生じてきていると実感します。私が卒業した昭和42年は、卒業生46名、男女比1：1だったのに、現在では卒業生80余名、男女比は女性優位になっています。関東支部の活動がこのような状況の変



平成22年7月3日 於 都市センターホテル

化に機敏に対応してきたかと問われれば、残念ながら否と答えざるを得ません。今一度、原点に立ち返って支部同窓会会員皆様の要望を分析し、それに即した支部活動を模索しなければならないと感じています。

もう一点は、同窓会の位置付けの問題です。否応なしに制度化された国立大学法人化によって、大学が変わったのと同時に同窓会の位置付けも変わってしまいました。即ち、親睦団体にすぎなかった同窓会が、法人化により

大学を運営する理事会、教育・研究に責任を持つ教授会、教育を受ける学生、教育を受けた同窓会という4者が対等の立場に立つ図式に変わったことです。同窓会がどのように関与していくかについては、これから色々と議論されていくことになるでしょう。その中で、支部がどのような役割を果たしていくのか、これからは様々なことを考えながら運営に当たらなければならないと思っています。

## 近畿支部

支部長 **梶野 繁** (昭42)

近畿支部では、本年度は役員改選の年にあたり、白石支部長(昭32)をはじめ昭和30年代3名の役員が勇退されました。代わりに梶野が新支部長に選出されました。また新しく昭和40年代2名、平成卒幹事が3名加わり大幅な若返りとなりました。

近畿支部は創立90年を超える支部であり、新役員の協力を得て伝統ある支部の発展に努めていきたいと考えております。また、本年も会員の交流と親睦を図るため会報15号の発行を予定しております。

本年度の特別講演及び長薬同窓会近畿支部総会・懇親会は平成22年10月16日(土)午後、長薬同窓会から中村 博副会長を迎え、支部会員422名のうち31名の出席のもと大阪弥生会館で開催されました。

総会に先立って行われた特別講演は“光に魅せられて” - 長薬に育てられた私の研究 - というテーマで中島憲一郎先生(昭46・長崎大学副学長)にお願いしました。

蛍光誘導体化試薬を開発し、無蛍光の化学物質を蛍光物質に変換後検出する方法が開発され、麻薬など多くの微量化学物質の検出に役立っているなど、光を利用する分析法をわかりやすく紹介していただきました。

総会では第1号議案～第5号議案は原案通り承認されました。

懇親会は立川武資さん(昭31)の乾杯の音頭で始まり、吉森由香さん(昭59)の軽快な司会で参加者一人ひとりの方から近況報告をいただきました。最高年齢の石津一貫さん(昭16)から体力の続く限り支部総会に参加したいとの力強いスピーチもあり、一同大感激。短い時間でありましたが楽しいひとときを過ごすことができました。

最後は淵上裕介さん(平8)の一本締めで終わりました。



平成22年10月16日 於 大阪弥生会館

## 広島支部

副支部長 **青野 拓郎** (昭52)

長薬広島支部同窓会を平成22年11月28日(日)にホテルニューヒロデンで開催しました。今年は諸般の事情から、いつもの年より遅い開催となり少し寒い季節となりました。

橋口先生(昭36)の司会のもと支部長の品川先生(昭44)の開会の辞で始まり、工藤先生(昭32)が昨年度に文部科学大臣表彰を受けられたことが発表され全員で拍手し喜びました。斎能先生(昭18)の乾杯の挨拶の後、会食懇談となりました。

懇談の中では、今年長崎に行かれた方が多く、長崎の変わった様子、坂本龍馬ブームに関する様子などいろいろお聞きすることができました。近々開催されるであろうクラス会が楽しみになってきました。

次に参加者からの近況報告がありました。中牟田先生(昭53)が広島国際大学薬学部の学部長になられたということで皆さんからいろいろ質問を受けておられました。また私を含めお孫さんの話題を話される方が多かったのも印象的でした。また皆さん薬品関係会社や病院や薬局、介護支援事業所等いろいろな業種で活躍されていることをお聞きできました。

校歌斉唱のあと、写真撮影があり、最後に工藤先生に挨拶を頂き、来年の再会を約し解散となりました。

斎能 正則(昭18)	古屋 敏子(昭47)
工藤 重子(昭32)	青野 拓郎(昭52)
大石 輝雄(昭35)	後河内厚行(昭53)
橋口 信彦(昭36)	中牟田弘道(昭53)
左利 龍彦(昭38)	岸川 映子(昭60)
村上 郁子(昭43)	瀧口 益史(院平5)
品川龍太郎(昭44)	手島 賢二(平8)
曾根 正勝(昭46)	



平成22年11月28日 於 ホテルニューヒロデン

## 山陰支部

支部長 **橋本 覚** (昭52)

平成22年3月13日に支部同窓会を開催しました。

例年秋に開催しているのですが、私の都合でこの時期の開催となつてしまい誠に申し訳なく思っております。そのためか参加者が例年より少なかったようです…。郡山さんが幹事を快く引き受けてくださり感謝いたします。

会は先にお亡くなりになられた先輩方への黙祷から始まり、各自の現況報告へと進みます。いつもの流れですが宴たけなわになりますと様々なお話が飛び出します。…県警を退職された医学博士の先輩が北海道の大学に招かれたこと、薬局経営の苦労話、そして計画している方の話、薬事法が改正され一部の医療機器は販売許可が必要だと学生に教えられたことなど…。その話題の一つがとてつもなく気になりました。それは後輩達のことです。

平成卒の方々は学部歌をまったく聞いたことがなく、勿論歌ったことなどないとのこと。支部会を重ねる

たびに気になっていたことなのですが、...「いつ歌ったのかな？」と思考が飛びます。「研修旅行でのことでは？」...いや、入学式後のオリエンテーションや卒業式でも聞いたような気がします。久住、えびの高原でキャンプファイヤーを囲み肩組んで歌っている情景も浮かびます。研修旅行では教授、職員、学生と、世代を超えた交流がありました。「先輩達に教わって歌った、いや、歌わされたのでは？」...そんな気がします。「研修旅行はいつ廃止になったの？」...昭和50年代の中頃らしい。...「と、言うことは昭和60年頃には歌われなくなったのかな？」...その頃、後輩達が学部歌のメロディーを楽譜に落としたそうですのでほぼ間違いないことでしょう。歌う機会が減ってしまい、先輩達からメロディーや歌詞が受け継がれることが消滅してしまった。...そのように結論付けました。

そして、最近では11月に長大祭が開催されているようです。「薬学祭は長大祭に組み込まれ、無くなってしまったのかな？」...昭和町時代の薬学祭、それはそれは楽しかったと亡くなられた先輩に聞いたことがあります。「それで、昔のほうが良かった」と、安易に導き出して良いものでしょうか。年代年代、それぞれに良き思い出が残っているのではないのでしょうか。私が経験した薬学祭も長大祭も楽しかった思い出がいっぱいありますから...

親子ほどの年の差を結びつけるのが学部歌で、一緒に歌うことが良き伝統だと思っていたのですが、どうもこれは怪しい。そうじゃないような気がします。

では、「良き伝統って何？」... 結婚、育児が終わって充実感に満たされる年になった頃、ノスタルジックな気分になって年代を越えた支部同窓会に「一度参加してみようかって気持ちになるのではないのかな？」...ふと、そんな気がします。参加してみて、『なーんだこんなものか...ツマンナイ』と思われてしまうのは残念なことです。魅力ある同窓会にするためにはどうしたら...。継続していくには...。先細りになる前に後輩達にパトタッチしていかなば...。若い人達なりに大学の懐かしさを醸

し出してくれるのでは...

「学部歌が歌われなくなったのも時代の流れじゃないのかな？」...」...

昭和町から文教町の新校舎へ、閉鎖された学生会館が新しい学舎へ、国立大学から独立行政法人へ...時代は変わって行きます。

ここ数年、山陰を舞台にした映画やドラマを目にします。映画では「白い船」、「天然コケッコ」、「レイルウェイズ」など。ドラマでは「砂時計」、「だんだん」、「ゲゲゲの女房」などです。そこに出てくる情景を見ると山陰には自然がいっぱい残っています。人情も変わることなく流れているように感じます。

長薬同窓会もノスタルジックな気分を残しつつ、育って行ってほしいものです。そして、『昔、こんな学部歌があったんだって、結構、いいじゃん！』って平成卒の後輩達に思われるだけで良いのではないのでしょうか。「学部歌に固執するのはちっちゃいことなんじゃないのかな？」...との結論です。

そして、私は...、プーププ、プーププ...ジャンジャンの囃子が10月7日のテレビから流れてくるとワクワクしてくるんです。



## 福岡支部浦陵会

支部長 青木 郁(昭38)

残暑厳しい9月12日(日)14時から福岡市中央区の福新楼にて、ご多忙な中伊豫屋会長、大学からは岸川直哉准教授にご出席いただき開催いたしました。

長薬同窓会福岡浦陵会は「21世紀の薬剤師像をアップしよう！」を大テーマとし、いろいろな分野で活躍されている同門の方にご講演をお願いしています。今回は、九大薬学部でご活躍の分子衛生薬学分野山田英之教授(昭52)にご講演をいただきました。先生は薬学の課題

は「生を衛る科学」すなわち健康体を病体にしないためのサイエンスと位置づけられ研究にまい進されています。演題は「環境汚染物質ダイオキシンの胎児・新生児への障害性：性未成熟のインプリンティングとその回避方法」でご講演いただきました。

ご講演は、マウスでの実験で、如何に低用量のダイオキシンのでも妊娠のある時期にさらされると短期間でも雄への影響が甚大であり、さらに次世代のみならず次々世代へと影響を及ぼすことを明らかとされ、さらにこれを防ぐ方法をも研究されていました。ヒトでも男性の精子減少、未成年に対する異常な性犯罪の増加は関連があるのではないかとのお話でした。大変重要な分野であり、貴重なご研究と参加された方々は感動されておられまし

た。

岸川准教授には、「長崎大学薬学部薬品分析化学研究室の最近の活動」の演題で研究の現状、今後の研究室の夢等のお話をいただきました。素晴らしい講演をいただきました。同門会の意義は、先輩、同僚、後輩の素晴らしい研究を聴き、遠慮なく意見交換が出来る点にあると考えるのですが、若い卒業生にはなかなか理解されないようです。

さて、私事ですが、同門会のお世話をおおせつかって、すでに5年が経過してしまいましたが、なかなか若い方が参加したくなるような同門会の企画が出来ず、苦慮いたしております。

今年の状況をご説明いたしますと400名強(433名)にご案内をいたしましたが、何らかのご返事をいただいた方は100名弱でございます。皆様からいただいた貴重な年会費が、郵便代で消えてしまっている状況です。卒業生の数では、昭和46年より定員が増え、以後の方が断然多くなっています。

今後は、薬科学科(4年制)卒業の方々と、薬学科(6年制)卒業の方々があつた訳でどのように同門を捉えて運営をしたらいいのか本当に苦慮しています。休会にすることも1つの決断とも考えています。



今年度は、昭和42年(1967年)卒の方をはじめとし、52年、62年、平成9年、19年卒の方々にお願いする計画でしたが、結果として山田教授お一人をお願いするような状況となってしまいました。来年度の学年企画員は1968年(昭和43年)卒、1978年(昭和53年)卒、1988年(昭和63年)卒、1998年(平成10年)卒、2008年(平成20年)卒の方々にお願いしたいと考えています。ぜひご協力をお願いいたします。

末筆ながら、くれぐれもお身体ご自愛いただきますよう祈念申し上げます22年度の報告といたします。



## 大 分 支 部

石橋 眞(昭49)

3月のある日、野尻支部長(昭48)から今年の長薬同窓会報は、お前が投稿せよとの下知があり、気が小さな私としては、命令に逆らう事もできず、悩みながら毎日を過ごしつつ、決心がつかないまま、筆を進めているところです。

平成22年度長薬同窓会大分支部の総会・懇親会は、平成22年1月30日(土)午後6時30分から大分駅前にある大分第一ホテルで会員22名の参加のもと開催されました。

今回は、同窓会本部の伊豫屋会長(昭41)、薬学部よ

り椛島准教授(平4)のお二人にご多忙の中ご出席いただき、同窓会を盛り上げていただきました。

まず、30数年(?)事務局を担当している阿部幹事(昭50)より会計報告、会員の異動等の報告があり、次に野尻支部長挨拶の後、伊豫屋会長から同窓会での近況や我が学部の卒業生からノーベル賞受賞者が出たことにより、長崎での薬学部の評価が上がったこと、下村先生に特別講演をお願いした時に長薬同窓会への割り当てが少なく、多くの会員に呼び掛けることが出来なかったこと、薬学部正面玄関ロビーに下村先生の写真を掲示していること、薬学部6年制移行により、平成22年から2年間は卒業生が半減するので会費の納入もよろしくとのこと、今、長崎は、坂本龍馬ブームというか福山雅治で賑わっていること、平成22年度総会は12年ぶりに復活した佐賀支部で

開催することなど・・・の報告がありました。

続いて、本年は、参加率の低い若い世代の方々にも多く来ていただくためにお迎えした、椛島先生から、「現在の薬学部全館及びその周辺の様子」についてパワーポイントを用いて詳しくお話しいただき、大変懐かしく当時に思いを寄せたところですが、改築リニューアルされた薬学部は、昔の面影がなくなり淋しい気持ちにもなったものです。

そして、恒例の記念撮影（現像された写真が手元に届くのがいつになる事やら？）の後、最後の薬専卒業生であり下村博士と同級生でもある西川大先輩（昭26）の乾杯のご発声で懇親会が始まり、ご出席の皆さんは大いに飲み、語り合い、宴が盛り上がったところで、若い方から卒業年次順に近況を語りながら自己紹介が行われました。開局された方、病院（薬局）勤務の方、行政の方、メーカー（卸）勤務の方など幅広い層の薬剤師が時の経つのも忘れ、昔話に花を咲かせ、楽しいひと時を過ごされたと思います。

最後に、恒例の薬学部校歌の合唱前に「巻頭言」を若松正人君（平1）にお願いし、野球部仕込みの堂々たる声に聞き惚れ、全員で校歌を楽しみながら、散会となりました。

来年の同窓会には、まだ参加したことがない同窓生の方、是非参加してください。同窓で学んだ者同士で語り合うこともまた楽しみです。来年、お会いしましょう



平成22年1月30日 於 大分第一ホテル

## 佐賀支部若楠会

幹事 **志岐 寿子**（平4）

佐賀支部は平成9年に定期総会を開催して以来、長らく休眠しておりましたが、6月22日にホテル・ニューオータニ佐賀において、全国から110名もの皆さまにご参加いただき、平成22年度定期総会を無事に終了することができました。これも伊豫屋会長をはじめ本部の方々と佐賀支部の同窓生のご協力のお陰だと、感謝しており



ご挨拶される佐賀支部若楠会会長

ます。

さて、平成22年度佐賀支部総会は、定期総会と同日に42名の出席を得て開催いたしました。まず、伊豫屋会長から来賓挨拶をいただき、続いて議長に近藤雅也氏（昭61）を選出して議事に移り、藤戸支部長から支部の愛称の提案がありました。

佐賀県の長楽同窓生の若い人が中心となって、楠の木のように大地に根を張り、大空に元気よく枝葉を伸ばして活躍できるようにとの思いを込めて、愛称を「若楠会」とすることに決まりました。

芽吹いたばかりの「若楠会」で、皆さまのご協力を必要としておりますので、今後ともよろしく願います。

## 熊本支部

### 松尾富士男（昭59）

平成22年度の熊本支部例会は、9月4日（土曜日）午後7時から県内では最も有名なホテルの一つである「熊本ホテルキャッスル」で開催いたしました。このホテルは熊本城に近く、夜になればライトアップされた熊本城が間近で堪能できます。今年は18名が定員の宴会場に、過去最多の20名の方々に参加いただきました。幹事の見通しが甘く、狭い部屋で我慢いただき、参加者の皆さまにお詫び申し上げますとともに感謝申し上げます。

開会に先立ち、支部長の山本喜一郎さん（院55）から大河内さんの訃報に触れ、参加者一同で1分間の黙祷を行いご冥福をお祈り申し上げます。同窓会本部からは薬品生物工学の伊藤 潔准教授（昭59）にご出席いただき、大学の近況に加え、下村 脩先生の記念式典開催の様態を動画でご披露いただきました。プレゼンは今年大流行した Apple 社製の iPad を使っておられとてもクールでした。乾杯のご発声は一番ヶ瀬 尚先生にいただきました。94歳になられた先生は健康の秘訣として“規則正しい生活”を勧められておりました。ところで、今年例会に関連して復活した行事がありました。有志によ

るゴルフコンペです。参加された3名の代表で古川真一さん（昭54）から、即席のクイズ形式（豪華賞品付き）で成績の発表がありました（優勝者：久松貞義さん（昭60））。宴会も盛り上がりきたところで、参加者による恒例の近況報告をいただきました。紙面の都合で割愛させていただきますが、皆さんスピーチがとてもお上手で笑い声の絶えない楽しい報告会になりました。会終了間際には、有難いことに木山ご夫妻（雄一さん（昭59）、容子さん（昭57））がはるばる天草の本土市から駆け付けてくださいました。皆揃ったところで、締めは宮崎賢三さん（昭50）をお願いし、来年も健康で参加するために皆さんで検診を積極的に受けましょうとの言葉をいただき、一本締めで締めていただきました。

さて、熊本支部では毎年開催される支部例会案内状の返信欄に近況報告をお願いしています。毎年、様々な皆さんの生活ぶりや幹事への労いの言葉を頂戴しております。返信いただいた皆様の近況は取りまとめて例会参加者に写しをお配りし、欠席された方も年に一度の会員間の情報交換の場とさせていただきます。平成23年度も今年と同じ「熊本ホテルキャッスル」で開催する予定です。広い部屋を押えてありますので、今年以上にたくさんの方にご参加いただけることを幹事一同心から祈っております。

最後になりましたが、以下に今年の出席者を列挙させ



平成22年9月4日 於 熊本ホテルキャッスル

ていただきます。

一番ヶ瀬 尚(特) 宮崎 賢三(昭50)  
平野 玲子(昭52) 岩下 淑子(昭52)  
古川 真一(昭54) 山本喜一郎(院昭55)  
秦野 正敏(昭56) 木山 容子(昭57)  
伊藤 潔(昭59) 木山 雄一(昭59)

松尾富士男(昭59) 矢田 道代(昭60)  
久松 貞義(昭60) 兒島 正樹(院昭62)  
山内 秀樹(平2) 前田 健次(平5)  
上仲 小玲(平6) 西辻 梅香(平6)  
坂田 真人(平15) 平原 尋子(平15)  
(以上20名, 敬称略)

## 鹿児島支部

支部長 森 昭雄(昭28)

本年の鹿児島支部会は11月6日(土)鹿児島市内のホテルパレスイン鹿児島にて開催しました。

先ず本年2月に55歳で急逝されました, 吉見計光先生(院昭55)のご冥福をお祈りして, よく支部会に出席して会に協力された先生を偲び話し合いました。2月14日のお通夜は鹿児島も豪雪で国道も不通になり難渋しました。

支部会の出席者は6名で大変さびしい集りになりました。今回は20名の先生に通知して幹事会として協議し, 新支部長を選任することにしましたが, 候補者の欠席のため後日お願いに行く事にしました。

私も平成元年, 前支部長故山田 亨先生(昭13)より支部長を引継ぎ22年過ぎました。当初はそれなりに盛会でしたが, 私の気力・体力の衰えとともに会もさびしくなってきました。若い先生方の親善のため, 若い支部長が必要です。支部会の先生方のご協力を是非お願いいたします。

懇親会では先ず, 桶谷先生(昭16)のごあいさつをい

ただきました。先生の健康法は, その場飛びと縄跳びを毎日実行されており, そのせいか写真でご覧の通り, 出席の5名の若者達(?)より顔色もよく活力にあふれておられます。良い事はまねすべきです。

少人数でも色々話題が飛び出して, 楽しい一夜でした。先ずは支部会の灯を消すことなくお互いに呼びかけて盛会にしよう。これが私への要望でした。

今回の出席者

桶谷 巖(昭16) 川島葉留美(昭39)  
森 昭雄(昭28) 松下 博昭(昭46)  
池田 修一(昭37) 新平孝一郎(昭47)



平成22年11月6日 於 ホテルパレスイン鹿児島

## 長崎県北支部

相川 康博(昭48)

今年の支部同窓会は, 11月20日(土)午後6時から国道35号線京町交差点の佐世保セントラルホテル2階のレストラン四季で開催しました。

生憎当日は, 長崎大学全学同窓会のホームカミングデーの行事と重なり, 伊豫屋長薬同窓会長の名代として薬学部の椋島先生をお迎えして, 総勢21人の会となりました。最初に亡くなられた高橋照夫(昭24)さんをはじめ物故者のご冥福を祈り全員で黙祷を行い, 次に椋島先生からご挨拶と同窓会の近況を報告していただきました。来年の同窓会総会は長崎市であるので, 多くの参加があるようお願いされました。

続いて今上 亨支部長の挨拶があり, その中で今年佐

賀であった長薬同窓会に出席して思ったこととして, 他の支部並みに支部長を若返らせたいとの思いから, 今泉貴世志先生(昭31)にバトンタッチしたいと提案がありました。

これに対し, 今泉先生からバトンを受け取るとの返事をいただき, 新支部長として挨拶を述べられ, 無事に支部長交代となりました。今上支部長におかれては, 2年間でしたが無理やり前大隈支部長(昭23)急逝の後を継いで務めていただき, お疲れさまでした。

このあと, 各自の近況報告を交えつつ, 会席料理に箸を出し, 注がれた酒を飲み交わしながら約3時間賑やかに歓談した後, 最後に新支部長の一本締めで散会しました。

出席者

大庭 義史(特) 今上 亨(昭25)  
松田 雄光(昭25) 中倉 敬昭(昭26)  
末武 和子(昭29) 今泉貴世志(昭31)

林田 匡代（昭36）  
島田志津枝（昭45）  
相川 康博（昭48）  
相葉 啓子（昭58）

松本 功治（昭41）  
田代佐夫子（院昭48）  
榑原 隆三（院昭50）  
荻野 清子（昭62）

松本 直樹（院平1）  
井手 指月（平2）  
小野原侑子（平16）

松本 玲子（平1）  
中村 沙織（平16）  
立石 徹（院平21）



平成22年11月28日 於 佐世保セントラルホテルレストラン四季

## 長崎県央支部

支部長 平山 文俊（昭41）

10月31日県央支部総会を開催した。会員140名のうち伊豫屋会長を含め18名に参加いただいた。総会は伊豫屋



平成22年10月31日 於 グランドパレス諫早

会長の挨拶と近況説明後、懇談、出席者各自の近況報告の後、来年は大村市で開催することでまとまり散会した。

総会案内を全員に出しても、半数の方々からしか返事を貰うことができず、しかも参加者は少数ということで、周囲からは同情される始末、クラス会とか同門会の参加者は多いのに、支部同窓会は共通の話題が乏しいのか、人間関係が希薄になる中で懇親だけの会合で良いのか、主催者としては色々考えさせられたが、今年度から支部総会への助成金が1万円から2万円に増額されたお陰で会の運営が楽になり、健康問題で高齢の方々の参加数が減少する中、今年は若手会員(昭和卒業の会員であるが)の参加があり、会としてどうか体裁がとれ、また新たな若手会員の参加は会の発展に希望を持たせるものであった。来年は平成卒業者の参加を期待したい。

諫早市はノーベル賞を受賞された下村 脩博士が過ご



された地で、それを記念して先般諫早市の有志で、長崎県立諫早高等学校の前に銅像が建立されたので報告する。

## 長崎支部ぐびる会

会 長 山 中 國 暉 (昭43)

平成22年度の長崎支部ぐびる会総会は、7月10日(土)17時から長崎市南山手町全日空ホテルグラバーヒルにて開催されました。

総会に先立ち特別講演を長崎大学大学院医歯薬学総合研究科の西田孝洋教授にお願いしました。先生は1月に薬剤学研究室の教授に昇任され、お忙しい中快く引き受けて下さいました。

「長崎大学薬学部ブランドの確立に向けて」という演題でのご講演では、長崎大学薬学部に対する熱い情熱を感じ、同窓会出席者も深い感銘を受けました。西田先生ありがとうございました。

その後、総会に移り式次第にしたがって物故会員への黙祷、校歌斉唱、会長挨拶、来賓挨拶(伊豫屋偉夫長薬同窓会長)と続き、議長に井上志郎先生(昭43)を選出し、議事に入りました。

### ○ 議事

#### 第1号議案 平成21年度事業結果報告

- ・定期総会開催 平成21年7月25日 セントヒル長崎
- ・長崎大学薬学部の長薬同窓生が教授の研究室に研究費を寄贈

#### 第2号議案 平成21年度決算・監査報告

#### 第3号議案 役員改選の件

#### 第4号議案 平成22年度事業計画

- ・定期総会開催
- ・長崎大学薬学部の長薬同窓生が教授の研究室に研究

### 費を寄贈

- 今年度は中島憲一郎教授及び中嶋幹郎教授の研究室
- ・本部事業への協力

原爆慰霊碑の清掃(8月第1日曜日)

小野島校舎跡地記念碑の清掃(11月)

全学同窓会ホームカミングデーへの参加(11月20日土曜日)

第5号議案 平成22年度予算

第6号議案 その他

以上、執行部の議案通り議決されました。

その後、水野和美先生(平11)に司会をお願いし、西脇金一郎先生(昭33)の挨拶・乾杯で懇親会を開始しました。西田教授の研究室の学生も参加し話が盛り上がり、時のたつのも忘れるほどでした。木下真理子先生(平17)の万歳三唱で楽しいひとときを終了し閉会いたしました。

総会・懇親会の出席者は以下のとおりです。

麓 伸太郎(特)	原田 均(昭51)
峰 唯信(昭26)	田原 務(昭51)
後藤 達元(昭32)	小笠原正良(院51)
西脇金一郎(昭33)	濱田 哲也(昭54)
木下 敏夫(昭35)	中村 忠博(昭59)
高木 康(昭35)	伊藤 潔(昭59)
伊豫屋偉夫(昭41)	森本 仁(平5)
山中 國暉(昭43)	岩永 真理(平6)
井上 志郎(昭43)	金村 隆則(平6)
中島憲一郎(昭46)	南 義人(平7)
猪平 民雄(昭47)	水野 和美(平11)
中嶋 誠一(昭49)	最上 元(平11)
馬場 満輝(昭49)	木下真理子(平17)

# クラス会および近況だより

## 下村 脩兄の同級生として思い出すまま

峰 唯信（昭26）

学年理事として、昭和26年（1951）卒業以来、篠田英夫兄にご苦労頂きましたが、健康上の都合で交替することになり、後任を誰かということで、「長崎地区の同級生が協力するからお前やれ」と学年理事を引き受けることになりました。

長崎、佐世保地区の昭和26卒は会員が祝寿を迎えた際、ささやかな祝宴で慶び合いお互いの健康を確認しあってきました。その模様は中倉敬昭兄の軽妙な報告文でご承知と思いますが、今年が一番若い雪澤和夫兄が傘寿を迎えて、次の祝宴は年長の本多圓治兄の米寿まで2年あり、その関係の報告もないことで小生に寄稿依頼のお鉢が廻ってきました。小生かねて本誌の『下村 脩博士 ノーベル化学賞受賞記念特集』募集に同級生でありながら寄稿せず申し訳なく思っておりましたので、2年前の彼のノーベル化学賞受賞発表時の模様を思い出し、寄稿することで責を果たしたいと思います。

昨秋（平成20年）『ノーベル賞』受賞者が発表されるや、どこでどう聞きつけたのか、小生も新聞、テレビ等の報道関係の取材攻勢に遭い、TV ニュースで小生が受賞した？ような小生のクローズアップの映像を視聴されたお知り合いの方々から「テレビに出てましたね。」と小生の周辺まで騒々しくなったことでした。

さて、下村 脩兄と同級生といっても、特別親しかった訳でも無く、いわゆる平凡な同級生だったと思っています。社会に出てからも、彼がアメリカ在住ということもありクラス会でも一緒にする機会もなく、同級生間でも「下村君は？将来帰国するんだらうか」と噂するぐらいで、一昨年の『朝日賞』受賞発表までお互いは会う機会も文通の機会も無いままでした。

『朝日賞』受賞が平成19年1月1日付け朝日新聞で発表されたのも、立石正文兄からの電話で知ったようなことで、彼が長薬同窓会誌に寄稿した『発光生物研究40年』を改めて読みなおし、賞が賞だけにいずれ『文化勲章』（当時は『ノーベル賞』とは思いませんでした）になるのではと、その業績の偉大さと名誉に、同級生として記念品を贈ることにしたものの、生来筆不精な小生故、『国内便』もままならないのにまして『国際便』となれば全く経験が無く、記念品を届けることの不案内に一人苦慮しながら、朝日賞授賞式が開催される帝国ホテルに、彼がアメリカから出席することを知り、苦肉の策でホテル気付でご本人宛に無礼を重々お詫びして届けたようなこ

とでした。彼は記念品を受けるや、多用の中からすぐ電話をしてくれましたが、お互いの久しいご無沙汰の壁も無く、同級生らしい会話にホットすると同時に丁寧なお礼にまたその律儀さに恐縮したものでした。

彼は、戦争末期の昭和20年に大阪住吉中学校から旧制長崎県立諫早中学校へ転校当時、各学年とも近郊の軍需工場に勤労学徒として分散動員され、全員と一緒に登校することはなく過ごしたものでした。その後、長崎医科大学付属薬学専門部で一緒になるという不思議な出会いで3年間を過ごしたものでした。終戦後の昭和21, 22, 23年頃の薬専への進学生は軍関係からの復員学生が多く、同級生でも年齢的に4, 5歳の差がありましたが、色々なグループに分かれ、窮乏の中にもそれなりに青春を謳歌したものでした。

昭和20年8月9日の原子爆弾投下で『長崎薬専』は壊滅。その後、存続か廃校の岐路に立たされ、校舎も『佐賀の多布施』『諫早の小野島』の仮校舎（戦争中の航空機乗員養成所）を転々とし、化学実験の設備も不満足な中での授業は、定量分析に使用する化学天秤も1台しかなく、計量するのに順番を待ったこと、ガス設備は無く熱源は電気コンロでニクロム線が切れては切れ目にガラスを溶かして繋ぎ繋ぎの実験、又ガラス細工も当時、長崎市片淵（小野島から私鉄、バスを乗り継いで2時間半の場所）にあった『長崎経済専門学校』の理科実験室まで実習に出かけたり、衛生化学の定性分析の『プロベ』の『牛乳』『清酒』をちょっと失敬する学生もあるなど、これ等は窮乏の学生生活の一例に過ぎませんが、下村脩兄の受賞後の色々な談話の中で「今の学生は物、金に恵まれて幸せだ」と言っていたのが印象的でした。

この稿を終るにあたり、『朝日賞』受賞の折の彼の談話の『双子たんぱくの「出世」』を拝借してこの稿を終わります。「私は47年前に渡米して、翌年、オワンクラゲから2種類の珍しいたんぱく質を発見しました。青く光るイクオリン（エクオリン）と緑の蛍光を放つGFPで、双子を授かったようなものです。イクオリンはカルシウムイオンによって発光するので、細胞中のカルシウムイオンの働きを調べる道具として使われました。GFPはきれいな蛍光を放ちますが用途が見つからず、美しいだけが取り柄でした。それが遺伝子研究の進歩で急変し、世界中で使われるようになりました。たんぱく質に印をつける道具として、研究に必要欠くべからざる物質とま

でいわれております。私としては、双子の一人が、他の研究者たちの助けで、みるみる成長して偉くなってしまった感じです。子供の成功は親の喜びであります。今回は子供の成功で朝日賞をいただき、すこし面はゆい感じですよ。」(平成19年1月30日朝日新聞)と。このことにつきましては、平成22年11月2日の下村 脩兄君夫妻を

囲んでの昭和26卒有志との会食の折、直接聞くことができました。

今回は下村 脩兄夫妻を囲んでの昭和26卒有志との会食の折の写真のみの寄稿で、当日の様子は次号に譲りたいと思います。



平成22年11月2日 於 セントヒル長崎

## 先生と呼ばれて

服部 俊明(昭28)

学業期に仰ぎ見て長かった人生は、省みて一瞬！ 八十路の後期高齢者となった。かつて大手メーカーを定年退職後、新たに1年間ビジネススクールに通い、経営に必要な簿記、会計、財務諸表論、商法、労働法、民法、PC等を学んだ。その後ある地方の化学薬品メーカーに10年余り再就職していた時代があった。

そこでは私は顧問として薬事や企画、経営や社長代行、中堅以上の幹部社員教育も担当した。ここでは前職の経験と新たに学んだ会社経営論を学んでいたのが職責上とても参考になったのである。これまで当社は昭和28年創業と、歴史は古いが戦後の物不足の時代にヤミ、トンビのようにして発足した個人企業だった。造れば何でも売れる時代の話である。そのうち、東京に遊学中の社長の娘さんが一流会社に勤める慶応出の会社員と恋仲になり、結婚して婿殿は二代目の社長となった。それまで番頭格で努力した幹部は浮かばれなかった。経験不足の新社長が東京のエリート社員が迎える感覚でトップダウンでそれぞれの部課に目標だけを提示して何とかしろと言うような発展途上の未完成の会社だった。そこで私はトヨタ方

式の改善に次ぐ改善案をブレインストーミングをさせて課単位で改善点の具体策の計画と中間結果の提出を毎年求め全体会議で発表させた。つまり各社員のアイデンティティーのイノベーションを訴求し続けた。ともすれば仲良しクラブの傾向の会社に新風を注いだのは事実であつた。

その故か社長初め皆さんは私を先生と言った。初めは何だか座りが悪い気がしたが慣れると恐ろしいものである。自らを先生と言ってそれらしく振る舞う様は私には何だか後ろめたかった。しかし、医療現場上がりで入社の方はそれが当然として定着しており、驚いた事にはお互いに先生呼ばわりして、凛として地位と職責を確認し合っていた。ある時母校の大学に行ったら、さすがに教授は私に先生とは言わないが、事務職員は一介の卒業生に過ぎない私を先生と呼んだ。私の態度が大きいのか反省する事しきりである。

さて、人間はどんな時に人を先生と呼ぶのであろうか??先生の真骨頂は学校の先生に過ぎる者はない。それは人の上に立って教え導き、教え諭し、教え授けるの

で次のように呼んでいるのだ。訓導，教諭，教授，学部長，学長，文部大臣と言うように教育界の格付けは上には上のヒエラルキーとなっているし厳しい身分差別が存在する。しかし先生がそんなに偉いのだろうか？ と，しみり思う。今や先生はその種類において多面的である。

『人皆わが師である』。中国ではその字の如く長老は全て先生と呼ばれている。つまり老人の本質は，歳を重ねただけ多くの経験を積んだことになるし，生きる知恵や判断力は若者の遠く及ばない所である。体で覚えた情報量は優に，図書館の一つに相当すると誰かが言った。私も北京や大連に行ったがそこでは皆さんは私を先生と呼んだ。だが，それは歳を取ったというだけで尊敬に値するという意味だった。それで長幼の序の儒教や朱子学も良く理解できた。

その外先生には政治家，宗教家，法曹家の他に医師，教師，技師，理容師，美容師，指圧師など師が付く職業が一般的である。さらに，手品師，箱師，詐欺師，山師なども師が付く。つまり共通して言えることは一般庶民には到底まね出来ない才能の保持者であろう。彼らは巷の民衆から見ればスマートでありカリスマがあり怪しい魅力があるのだ。その故に先生は時空を越えて尊敬と信頼を一身に集め指導者として名実共に，社会的歴史的にも君臨している人が多かった。

でも，ここで考えれば人の願望や，困っている時，また弱みに付け込んでの商売という考え方も成り立つ。学

校の先生は生徒の生殺与奪の権を握り，点数を付け，内申書にも及ぶので生徒や父兄は将来をつかまれていると言えなくも無い。手も足も出ないのだ。医師だって今際の際には患者は全財産をつぎ込んで助かりたいと願う筈である。薬剤師が先生と呼ばれるのは，効能品質確かな医薬品を研究開発し，製造し，適正に供給し，病院や市中の薬局では医師の処方箋をきちんとチェックし，正確に調剤し，適格な服薬指導は勿論のこと町の科学者として何でも相談できる職業人としての尊敬と祈りを込めた期待からだろう。ユメユメ調剤過誤や説明責任の回避などには有ってはならない。

政治家は国の在り様と理想を語り外交と治安をつかさどり，国を賄い民を救う。宗教家は「善人なおもって往生を遂ぐ，いわんや悪人をや。」と民衆を極楽浄土に導く。また弁護士は弱者を助ける正義の味方。パーマ，アンマも人の子，匙加減と言う言葉もある。こんな時には先生，先生と奉り一見尊敬しているかに振る舞う方がフレンドリーで可愛いのである。その上に少なくともコンフロンテーションと言う様な反感は買わないし，危険が身に及ぶ事もない。要するに自己防衛の手段に他ならない。こう考えると先生もそれ程高貴な職業とばかりとも言えない気がする。『先生と言われる程のパカでなし』。時代の流れか先生の一部や専門家に指導者らしからぬ不祥事が付き纏うが，それは疲弊した現代社会に蔓延している根が深い病理かも知れない。

## ノーベル賞下村氏「私の履歴書」から

服部 俊明（昭28）

平素はご無沙汰しております。ところで，皆様も既読の事と思いますが，去る7月，日経新聞は毎日下村 脩氏の履歴書を31回に亘り最終紙面に連載していました。知人（先輩）の履歴だからなつかしく興味一杯拝見しました。事実を淡々と自然体で余裕を持っての書き方にも好感を抱きました。

フルブライト留学制度に纏わる裏話，にわか博士など読むたび新しい発見がありました。また研究の周辺が詳しく公開されていたので今でも心に残っています。

中でも博士の母校の一つである大阪府立住吉高校での話で，① 校庭に博士の銅像を立てたとか！ フセインを思い出して複雑な気持ちだと云う・・・② 同校で「特別講演会」後に生徒からの質問で「研究が行き詰まった時どうするか」と言う質問に対しその応答で，『試行錯誤を繰り返し原点に戻って他の方法で何回でもやり直せ！ 成功するまで諦めるな！』と，御自分の体験から自信に満ちた回答でした。私は研究者の真髄に触れた思いが致しました。

その上で此の質問には私ならば次の様に付け加えたい。

①出来ると言う確信が持てない時には，選挙や株式と同じで損切りも時には必要である。また，宝くじならば当たるまで買い続ければ長い間には何時かは当たるだろうが，これには簿記の貸借対照表的考え方も大切。（費用対効果の不確実性）②人間世界には限界があり，そこに宗教があるのである。③数学の世界でも未だ解けない多元多次方程式などで難問があり，これには数式で解答不可能証明をしている。また論理が不整合である・真ん丸い三角形は書けない。等等。④恋愛と同じで非対称的でどうにもならないことがある。この場合はたった一度の人生だから，触れ合いと感動を求めて転進し，相応しい目標を探すのも人それぞれである。

以上若者にとって参考に成ればと私見を書いてみました。

後記，下村先生の履歴を通読して，氏のお人柄が偲ばれました。人徳と言った方が良いかもしれない。お父君

が陸軍現役将校で、軍からの配属将校として旧中学、高校、大学などに赴任され監督指導官をしておられた。それで先生は旧制中学や高校時代は何度も父君の転任に伴い転校を余儀なくされた。これ等の苦勞が肥やしになって生きる知恵が自然に身に付かれたのであろう。その甲斐有ってか先生の周りは何時もの全てが組織的に協力的であった。言うなれば serendipity (ふとした偶然) を掴む偉才の持ち主となられたのかも知れない。挿入され

た写真の保管はこの日の為に用意されていたのであろうか、往時の状況が良く分かりました。

受賞後は各方面からの講演依頼や研究の師事相談等超ご多忙と承っております。これからは生涯研究者として健康に留意されて後進の指導に当たられることを祈っています。

以上拝読の感想と御礼まで。

## 平成22年 三朋会だより

峯 武麿 (昭30)

今年の三朋会は関西が担当となり、太閤秀吉も愛した有馬温泉に2泊し、六甲山から神戸での観光を計画し、出来るだけ歩き回らずに温泉でゆっくりすることにしました。

10月13日(水)、東京や九州からの仲間たちが有馬温泉の有馬ビューホテルに集まりました。ここはヘルスセンターだった所が阪急、阪神、第一ホテルの経営となり、大改造されただけに金泉、銀泉の大浴場、広々とした露天風呂、岩盤浴をはじめ飲食コーナー、土産物店も完備し、館内だけでも迷子になる程で、日帰りの岩盤浴客も多く充分に楽しむことが出来ました。

6時に記念撮影の後、山戸君の乾杯の音頭のあと宴会、近況報告や楽しい語らいの後、別室で二次会、例年どおり酒井さん差し入れのお酒(今年はサントリーの響)各人持ちよりのお菓子、おつまみ等で12時ごろまで歓談しました。また仕事の都合で参加できなかった江口 嶧君から、昨年に引き続き各人にお土産を頂戴し、有難うございました。

翌14日は9時に貸し切りバスでホテルを出発、裏六甲から長いトンネルを抜け神戸三宮へ出て、ポートアイランドの神戸空港の一つ手前にある神戸花鳥園へ到着。ここではスイレンの池のまわりにトランペットフラワーが咲き乱れ、天井からフクシアが垂れ下がり、大輪のペコニアを鑑賞しながらペンギンの餌付け、ふくろうの飛行ショーを見物し、サイチョウ、オオハシ、インコへの手からの餌やりなど楽しい一刻を過ごしました。11時20分に出発し、六甲山へ、六甲ケーブル下から険しいジグザグの山道を通り、途中、鉢巻展望台から神戸港を見下ろし、その後六甲山ホテルへ。ここでも神戸港を見ながら昼食。1時半ホテルを出発し、六甲甲山植物園やオルゴール館、今年出来たばかりの六甲しだれなどをバスで周遊し、3時ごろホテルへ帰りました。温泉で休養し、6時から宴会、極上の三田牛のすき焼き焼きをつつきながら三朋会の今後につき意見交換しました。80歳近くなり幹事も大変なので、来年は長葉入学60年を記念に一旦打ち上げたらどうか、いやいやまだまだ続けたいとの意見も

多く、さしあたって来年は長崎(九州地区)が面倒をみることで決着、その後の二次会では神戸ワインを飲みながら談論風発、抱腹絶倒の逸話も飛びだし、貧しいながら心豊かであった同世代をと共に生きてきたもの同士としてこういう話が出来るので、三朋会はやめられないということになりました。

15日は温泉でゆっくり休養したいという酒井さん、宮崎さんとホテルで別れ、残り11人は座席指定の有馬エクスプレスで裏六甲から表六甲へ六甲山トンネルを抜け、新神戸で荷物を預けた後、レトロなシティーグループバスでガイドの案内を聞きながらハーバーランドへ、ここで2138tの客船コンチェルトに乗船、目の前でシェフが料理してくれる神戸牛などを食べながら神戸港内をクルージング、天候もよく潮風に吹かれながら食後、甲板上で明石海峡大橋や六甲山、神戸の街並みを眺めながら素晴らしいものでした。2時ごろ下船し、タクシーで新神戸へ迎え、来年の再会を約しながら新神戸駅で解散しました。

(出席者)

川上 萬里、黒岩 幸雄、小島 弘、森田 和之、  
山戸 寿、山本 勲、黒岩 映子、郷野美智子、  
酒井 裕子、馬詰 久子、宮崎タツ子、峯 京子、  
峯 武麿





平成22年10月13日(水) 有馬ビューホテル

## 長薬同窓会総会に出席して

小林 浩 (昭32)

32年卒のクラス会を解散して2年目。長薬同窓会総会で逢う事で参集しました。梅雨真最中の佐賀へ。飛行機も遅れるやら佐賀平野は水浸しの様な日になりました。佐賀での総会は初めてなので少人数かと思いきや、会場には多くの参加者で100名を越す大盛況となっていました。特に若い方が多い事と大先輩の元教授陣のご出席に驚きました。指定された席が最前列に、いつの間にかそんな年になっていたのかと自覚させられました。

当日、特別講演された国立国際医療研究センター肝炎・免疫研究センター長 溝上雅史先生のお話は、我々に希望を与えて頂いた素晴らしい話題でした。「日本人の肝臓がん、なぜ多いの？」と題した遺伝子レベルの内容でした。その違いを構造式で話されましたが、やっと理解できたのは二点。其の一点目は人種的に日本人の遺伝子は他国人と違ってガンを多発する遺伝子が有ること。C型肝炎の治療でインターフェロンの副作用が出る人、出ない人の違いも、個々人の遺伝子が違う場所に有るのが原因。その違いが効果や副作用の違いとなる事だそうです。ベクタインターフェロンとビバピリン併用療法が効果は有るものの、現在は高齢者が年齢制限されていたが、年齢制限が解除されるとの朗報が有りました。法的制限が解かれて治療の可能性が有る患者さんに長生きの夢が実現される嬉しい話です。二点目は、人の遺伝子が全て解明されて性格、体格、罹りやすい疾患等々が全て30分で分かる様になったと聞いて、人生全てが丸裸にな

りますが、病気の治療には正に「開けても良いパンドラの箱」、但し検査料1千万円。多分、難治性疾患や先天性疾患の治療に向けられる明るい時代を開く宝に違いのないと思いました。

下村先生が、緑色蛍光タンパク(GFP)を発見されたのが1961年。分子生物学の端緒が開かれて、その後2004年には最も難しい嗅覚神経の組織化を、遺伝子にGFPを組み込み発見された2名の方がノーベル賞を受賞されています。この年に「下村先生の偉業を称える会」が開かれた折、参加者から下村先生に問われました。「遠い昔、何故おわんクラゲを掬い集められたのですか？」下村先生は「謎を解きたかった」とだけ答えられたそうです。

出典：「光るクラゲ」V・ピエリボン/D・F・グルーバー著

7月8日に日本科学技術会議は、「ゲノムコホート研究」をアクションプランに加え、医療情報と総合して、難治疾患の早期診断、早期治療の道を開くと報告されました。政府も多額の研究費予算を計上したと報じられています。今回の溝上先生のご講演、GFPを発露とし長年研究の一端をご披露されたと合点できたのはこのニュースを知って初めての事。世界では、今やGFPゲノム研究が疾患治療や治療薬開発等盛んに行われています。GFPがかくも臨床に大活躍する時代になったかと。謎解きされた下村先生もさぞ満足そうに眺めておら

れるに違いないでしょう。

今や「分子生物学」花盛り。長崎大学でも各学部の総合力を発揮されて、ゲノム・コホート研究に取り組んで頂きたいなと遥かな希望。

翌日、折角佐賀に来たのだからと佐賀城巡り。殿様始め、佐賀賢人の生き様に葉隠れ精神の気風を知りました。一応化学者だからと呼子の玄海原子力発電所を見学しましたが、素晴らしいエントランス、唐津の山車が勢ぞろい。原子炉・発電機の大型模型が目のに切り開かれ

て内部構造もクッキリと、久しぶりの化学の時間。ウランの原子番号幾らだった？ プルトニウム、良くもこんな怖い物を平気で扱っているなと思えば皆ロボットだそうです。資源の無い日本の宿命、原子力エネルギーの利用は必然と理解出来ました。当日は燃料の搬入作業で物々しい警備でしたが、見学には親切な解説つきのエスコートが付きまして。大雨に見舞われた佐賀の総会は近來にない良い勉強会となった旅でした。

## 平成22年度参楽会だより

熊本 公子(昭33)

参楽会は、長楽同窓会平成22年度定期総会(於佐賀)の翌日6月27日に熊本県植木温泉で開催した。

生憎の雨の中を集合場所のJR佐賀駅に集まり、ホテルのバスに乗り込んだ。途中で名所旧跡を訪ねながら、夕方、ホテルに着くという計画だった。

バスの外は時折激しい雨だったが、乗っている私たちは、車窓の風景を楽しむよりもおしゃべりのほうが忙しかった。前回の東京同窓会からまる1年とあって、積もる話に余念がなかった。

「鞠智城に着きました～」との運転手さんの言葉で下車。あんなに降っていた雨はうそのように止んでいる。鞠智城の小高い古代の丘は、晴天の日よりもこのような曇り空のほうが、はるか悠久のロマンを感じるのに相応しいと思われた。数々の珍しい建物(八角形の三重の塔の<鼓楼>、校倉造の<米倉>など)が復元されており、私たちは<温故創生の碑>の前で記念写真を撮った。

その後、田原坂(西南の役最大の激戦地)、熊本城を

見物して夕方早くにホテルに着いた。雨傘はバッグに仕



平成22年6月27日 於 熊本・植木温泉

舞ったまま、一度も出番がなかった。

夜の宴会の席で、角田さんが意義深い訓示を垂れて（？）くださった。「水をたくさん飲みましょう。そして、元気で長生きを！」。私たちの仲間は、今年度は次々に75歳の後期高齢者入りをする。せっかく長生きをするなら、死ぬまで元気で生きたいものだ。

同窓会が終わって早ひと月。7月17日の梅雨明けと同時に日本全土がこれまでにない猛暑に見舞われています。

報道機関は毎日のように熱中症による死者を伝えて「水分の補給を」と予防を呼びかけています。私たちも角田さんの言うことをよく聞いて、来年の参集会にも元気で参加しましょう。来年は長崎です。

最後になりましたが、幹事の西脇さん、地元の池田さん、井元さん、角田さん、お世話になりました。有り難うございました。今年参加できなかった皆さん、来年はぜひご参加ください。

## 昭和35年（1960年）卒業生 50周年同期会

木下 敏夫（昭35）

昭和35年（1960年）卒業生の50周年同期会を平成22年（2010年）5月29日雲仙福田屋で、翌日は熊本市を經由して天草へのポスト同期会を行った。雲仙での開催は昭和55年8月（20周年）以来2回目である。同期会の開催は昭和46年（1971年）4月に福岡市で第1回（11周年）以来12回目である。この年齢になると、病には勝てず残念ながら欠席との返事が回を重ねる毎に多くなる。

5月29日午後、長崎駅に集合し、福田屋の送迎マイクロバスで雲仙に向かう。途中、長崎歴史文化博物館（龍馬伝館）に寄り、今話題の坂本龍馬に関する展示を見学した。

福田屋で同期会：

挨拶、乾杯の後直ちに宴会、いつものことながら、時は学生時代にワープし、和気藹々とした雰囲気の中話は弾む。話題は時代と共に変わり、最近では孫の話も多くなるが、寄る年波には勝てず、TVのCM「僕には希望がある、夢があるそして持病がある」ではないが持病の

話題にも事欠かない。現役で頑張っている者もかなりおり、開局者は経営、薬事関係のことで話は尽きない。時間がたつのは早いもので瞬く間に予定時間となり、記念撮影の後、場所を移し12時過ぎやっと就寝となった。

翌日、仁田峠で満開のミヤマキリシマを鑑賞、数年ぶりに見るミヤマキリシマは青い空と木々の緑に囲まれ見事なものでした。ついで、島原外港の近くにある、「がまだすドーム（雲仙災害記念館）」を見学、この記念館は、平成2年（1990年）11月17日噴火（薬学部の創立100周年記念式典が行われた日であったので覚えている方も多いのでは・・・）に続く翌年（1991年）6月3日の大火砕流の被害状況などの詳しい説明とともに、犠牲となった報道関係者のカメラ、ビデオカメラ、ジープ等の展示があり、その凄まじさが実感できる。その後、島原外港で帰宅組と天草旅行組（参加者9名）に分かれた。天草組はフェリーに乗り熊本市へ。新装成った熊本城を見学、話題の本丸御殿大広間の「王昭君之間」にある障



平成22年5月29日 於 雲仙福田屋

壁画は噂に違わず圧巻であったが、近くで見られなかったのは残念だった。

一路天草五橋を渡り天草へ。本渡市郊外の「ホテル・アレグリアガーデンズ」で、ポスト・プチ同期会を行う。翌日、西の久保公園へ。ハナショウブ、アヤメ、カキツバタ約25万株が植えられ、色とりどりの花が咲き心を和ませてくれた。鬼池港からフェリーで口之津港に渡り、小浜経由で長崎へ。長崎駅で解散し今回の同期会は無事終了した。

50年を節目にし、今後の同期会を継続するかどうかの意見を聞いたところ全員が継続に賛成で、次回は2年後

を目途に関東地区（中尾君と松尾君が中心となって）で開催することになった。健康に気をつけて再会を約した。

最後になりましたが、「雲仙福田屋」は名前のとおり同級生の福田葉子さんが、大女将として旅館を切り盛りされており、お忙しい中種々お世話いただきました。

出席者：足立 寛；荒川清子；一ノ瀬幸生；井上明子；大久保千鶴子；小川満子；木下敏夫；草野房子；桑山寿美子；桑山良照；福田葉子；高木 康；中尾哲朗；中村永秀；西山由美子；長谷川宏明；藤岡 健；松尾一誠；元永育子；山本 剛；渡邊三三四；渡辺 治以上22名。

## 36ばってん会

園田 フミ（昭36）

深まり行く秋、絶好の季節の平成22年11月11日(木)～12日(金)(1泊2日)・ゴルフ組10日(木)～12日(金)(2泊3日)昭和36年卒のクラス会を行うことができました。

今回初めて大分県で開くこととなり、どこでどのようにしたらよいものか、大分在住の有吉さん、伊藤さん、園田で打ち合わせを重ね早めのホテル等の予約をしました。

当日まずまずの天気にて城島高原でのゴルフを満喫したのは白松さん、越中さん、藤島さんです。クラス会参加者は上記3名に浅井さん、黒田さん、松林さん、吉川さんの男性7名、女性は味田さん、佐々木さん、林田さん、高木さん、武田さん、自見さん、廣島さん、有吉さん、伊藤さん、園田の10名、計17名の36ばってん会参加

でした。

天然温泉、風情に満ちた老舗ホテル白菊（別府駅より徒歩7分）に参集、夕刻より宴会、献立は大分の河豚・関さばも折り込まれ、とても美味しい上品な数々でした。

続いて二次会は、幹事の部屋に全員が集まり話に花が咲きました。子どもが巣立ってからの定年後、この第三の人生こそが収穫期であり、いちばん充実していなければいけないのだと思いますとき、まずは健康だと実感するものです。そのために、週4日スポーツ教室に通っている人、水泳を覚え今では1000mを泳ぎきるといい、10000歩と交互に頑張っている人、未来ある子供たちに感動を与え好奇心を持たせ、科学する楽しさを引き出す方向で活動している方はボランティアだと聞きました。



36ばってん会 平成22年11月11日 於 別府 ホテル白菊  
林田、高木、園田、有吉、松林、自見、佐々木、武田、浅井、黒田  
伊藤、廣島、吉川、藤島、白松、越中、味田

何でもよい、誰かのために役に立つことが自分の喜びになる。人のためにやっているようだけど、実は自分のため。張り合いがあると元気でいられるのだと痛感したのです。そして更に何事も前向きに心をたて直すことだと。快いあっという間の二次会でした。

二日目早朝の雨の心配もはれ、8時30分ジャンボタクシー2台で九重“夢”大吊橋へと向かいました。お天気にも恵まれ、往きは九州やまなみハイウェイ、道中、赤や黄、色とりどりに紅葉した左右の景色を眺めながら、いよいよ長さ390m・高さ173mの日本一の大吊橋に着きました。標高777mから望む360度のパノラマ、紅葉の見頃最高の絶景でした。4日前の11月8日、オープンから4年と9日で600万人を突破したのです。観光タクシーの計らいで、早めの出発のお陰様でそれほどの混雑もなく進めましたことを嬉しく思っています。

次は、大吊橋を後に下って行くとまたも見頃の九粹溪

のあざやかな紅葉に目を奪われ、間もなく湯布院に着きました。そして今回初めて宇奈岐日女神社という大分縣社にお参りすることができました。この神社には、平成3年9月に19号台風で倒れた杉木が144本も伐採され、樹齢600年、高さ55mもあった御神木がまつられてあるのです。それから真っ赤に紅葉した木々、風情のある落ち着いたお庭、隣接の金鱗湖を散策し、昼食は亀の井別荘内の湯の岳庵です。心のこもった料理の数々を美味しくいただき、白松さんは大分空港へ、越中さんと林田さんは、JR久大線に乗ることになり、他の14名は、またジャンボタクシー2台で別府明礬温泉湯ノ里、海地獄、鬼石坊土地獄を見物し、ホテル白菊に到着、預けておいた荷物を受け取り、また1年後、卒後50年長崎での36ぱってん会の再会を約束して別れた。

いろいろな事情で参加できなかった方、次回には是非お会いしたいと楽しみにしています。

## 「原爆の日」に思う

永田 了一（昭36）

平成22年8月8日朝5時すぎ、ヒヨドリの突然の大きな鳴き声で目が覚めた。今までこのような騒がしい鳴き声をきいたことがなかった私はしばらくしてあることに気が付いた。7月初め頃、我が家の玄関先の庭木にヒヨドリの巣があるのに気が付き、中旬ごろ卵が4個生みつけられ、この真夏の暑さにもかかわらず抱き続けられ、末には無事4個とも雛に孵りました。その後、つがいですっせと餌の昆虫やトカゲ等をとってきてかわるがわる雛に与えていました。こちらもいつ巣立つと楽しみにしていました。それが今朝の大騒ぎです。妻もこの異変に気が付いて、外に出てみたところ巣の下で猫、それもあまり見かけたことのない野良猫が舌なめずりして満足気に木の下から出てくる場所でした。全く予想してなかったとはいえ、何か手助けができなかったかと残念でなりません。ヒヨドリのほうはしばらく近くの電線に止まって鳴きあい、その後も餌を採って来て巣に戻り、キョロキョロ見回していましたが、あきらめたのか飛びたっていき、鳴声もその後聞こえなくなりました。あとで、巣を見たら中は産毛が少しあっただけ、巣自体はおそらく猫の前足でひと掻きだったので、外側の一部が壊されていました。

このような弱肉強食の現象は人間社会でも全く同じではないでしょうか。今日、8月9日は長崎に原爆が落とされた日で、平和公園では65回目の「原爆の日」を迎え、今年も祈念式典が開かれました。原爆投下後のことはマスコミ等で語り継がれておりますが、私も65年たった今でも記憶しております。当時、長崎港外の伊王島に住ん

でいた私は国民学校2年生で、海で泳げるようになるのに夢中でした。伊王島は稲佐山展望台から眺めると西方にあって、長崎港の入り口に横たわっています。その関係で、長崎防衛のため、幕末当時佐賀藩領であった伊王島に苦心の末、佐賀藩主は1852年沖に向けて巨砲4門を新台場に据え付けました。原爆投下当日、私は朝から近所の同年代の子供3、4人とすぐ下の海でひと泳ぎして、隣家の縁側で仲間と一緒に休んでおりました。そのとき、B29の爆音が聞こえてきました。その頃はもうB29やグラマンが飛んできて攻撃はしなかった（飛来初期のころは金属音を立てて機銃掃射がなされた）ので、そのまま座って音のする方向（岩屋山よりやや南側）で、東の方から飛んできたB29をジーと見てみると、落下傘が三つほど落ちてきました。その時です、ピカッと閃光がきらめいたのは。誰かが「広島に落ちた落下傘爆弾だ」と。みんな一緒に家の裏にあった防空壕に飛び込むと同時にドーンと音がしました。しばらくたって、防空壕から首を出して長崎の方を見ると、上空に雲が灰かわかりませんが漂い始めました。敗戦日の15日が過ぎるとすぐ、アメリカ軍が水陸両舟艇でやってきました。後で判った事ですが、彼らは先に記した砲台の砲身を四砲とも破壊し、また別に高射砲、探照灯も同じく壊されており、高射砲の七割は木製でした。雛に原爆が必要だったのでしょうか。

長葉諸先輩：原爆犠牲者の御霊に心からお祈りいたします。平成22年原爆の日。記

## 昭和37年卒クラス会報告

荒木 弘章(昭37)

昨年の唐津に引き続き、今年は9月27日及び28日大津にて、開催いたしました。馬場君を中心に、京阪神地区在住の者がお世話をさせて頂きました。大阪としては前回の奈良で開催以来、6年振りとなる。当日、皆の到着を今や遅しと、石山寺駅で待ち受けました。今回は参加者が減り、17名の参加に留まったが、遠く海外在住のH君始め、熊本のAさん、千葉のO君、埼玉のN君と懐かしい面々を見つけ、お互いの無事を確認。直ぐに、あの懐かしい学生時代に戻ってしまうのは、なぜなのだろうか。お互い忘れられない強烈な印象が湧いて来たのか。

皆揃ったところで、観光バスにて石山寺を参拝。緑に包まれたお堂、名前の由来となった天然記念物の硅灰石の奇岩、穏やかな流れの瀬田川に囲まれ心を和ませます。次いで、市内を横切り三井寺へ廻る。久し振りに出会い、お喋りで車中は賑やかだ。素朴な阿・吽形の金剛力士像が納められた荘厳な仁王門を入り、杉の大木に囲まれ静かに佇む金堂、三重の塔と境内を巡る。紫式部が源氏物語の構想を練ったと言ういわれの寺としても有名だし、西国十四番札所でもある観音堂もあり、立ち寄る者もいた。

宿泊・宴会会場となった大津プリンスホテルへ到着。琵琶湖の展望抜群の高層ホテルだ。到着頃から、雨が降り始めた。明日の天候を気にしつつ、宴会を始めた。馬場君の歓迎の挨拶、O君の乾杯の音頭と続き、琵琶湖名物の料理に舌鼓を打ちつつ歓談に移る。H君によるアメリカでの経験に基づく米語発音の講義、A君のFFフォース活動での海外ホームステイの紹介等を交えながら宴も盛り上がる。我々の年代と言え、介護や成人病、健康法の話になると、それぞれ何らかの関わりもあり、

更にボルテージも上がってくる。70代にもなれば、さもありませんと納得。でもお互い、この会合に出席できるからには、まだまだ元気だと言う証拠と言うことか。

二次会は、畳の部屋に移り、全員が車座になり、気分を変えて、くつろいで、お互いの豊かで多彩な生活状況に話が弾んだ。常連のI君の代理出席の名物焼酎も良き潤滑油となった。夜も更けて行き、三々五々、自室に戻り夜を明かした。雨は、未だ足音を立てて激しく降っている。

二日目、朝食はバイキングスタイルで、好みの食事。でも、ここでも、噂の中国客の進出のせいで、並ばない



と席がない始末だった。9時、伝教大師最澄が開いた比叡山へとバスは向かう。昨日の雨も、すっかり止んだが、山頂へ向かう途中の山の朝もやが、神聖な雰囲気を出す。佛教歴史の勉強だけでなく、西塔、東塔と巡り、互いの健脚を確認した。昨日今日と、伴侶・家族の健康・安全を祈り、御集印に興味を示すHさん、Mさん、T君

等、多くのお寺を周り、霊験あらたかなこと間違いなし。昼は京都へ降り、B君思い出の「八千代」で、豆腐料理を堪能しつつ帰路についた。

来年の開催場所については、ラスベガス、沖縄、箱根など、まだまだ元気な意見が出ていた。思い出多き学生時代を楽しく過ごした仲間との再会を期す。

## 昭和38年卒同窓会報告

岡 邦彦（昭38）

今年、平成22年はNHK大河ドラマ坂本龍馬の長崎ロケもあり又、豪華観光客船の入港もあとを絶たず、長崎の街は例年より殊更賑やかです。

長崎「おくんち」も過ぎ、少し落ち着いた頃の10月22日に長崎の青柳で昭和38年卒同窓会を開催しました。南は沖縄北は東京その他各地から男性10名、女性9名 総勢19名（38年卒40名現在37名）の参加者が有りました。不参加の理由として体調不良と連絡された方が3名ほどあり、我々の世代もいよいよ70の大台に仲間入りと実感、納得しています。で、古希の祝いを兼ねた同窓会となりました。

長崎での開催も回を重ね（60歳に達してからは2年おきに、各県持ち回り）今回は、古希の祝いでもある事だし亀山社中でのロケの場面も頭にあり、唐突な感じの企画でしたが、長崎検番の芸妓さん3名を呼んでの宴会となりました。

月琴と芸妓さんの踊りは素晴らしく、賑やかな晴れやかな宴会となり長崎での良き思い出として記憶されると

思います。又会場から飛び入りが有り、長崎ぶらぶら節を福岡から参加された青木氏の三味線に合わせた芸妓さんの小太鼓との競演は見事なもので拍手喝采鳴り止まず、今宵一番の余興となりました。

余談ですが、艶やかな芸妓さんの踊りが終わると会場から「モッテコーイ」の掛け声が上がりました。これは長崎「おくんち」の定番の掛け声ですが、この掛け声は誤りだそうです。この場合の正解は「ショモヤレー」です。

二次会は近くのカラオケ会場です。今日は雨降りではなく曇り空でしたが、カラオケ最初の曲は内山田洋とクールファイブの「長崎は今日も雨だった」で、広島から参加の左利氏が素晴らしい喉を披露してこれもまた拍手喝采で地元長崎らしい始まりでした。最後に八尾市から参加の中野氏の締め挨拶があり、次回関西での再会を約して午後11時に散会、これにて長崎同窓会は終了となりました。遠方より参加された方々、お疲れ様でした。

長崎幹事一同



平成22年10月22日 於 料亭 青柳（長崎）

## 子育て草

松村 祐子（昭40）

3月に会社が動物薬部門を譲渡したため、社員ごと移った。同じ動物薬の販売とはいえ、社風が違えばやり方も異なる。よし悪しはどうあれ、慣れるまでしばらくかかった。

高校の同期生が亡くなった。ご主人も同い年だったので、通夜に出かけた。友達の友達で、親分肌の、明るい笑顔でやさしいものいをする人だった。かっこいいご主人と、息子さんと4人の高校生のまご娘さんが深々とおじぎをした。古稀までまだ少しあった。

昨日も雨だった。午後少し上ったので、鉢と土を買いに出かけた。3年前のランタンフェスティバルで「子どもができますよ。」と勧められて、一株子宝草を買った。植え替えてどんどん増えたけれど、大きくはならなかった。もともとどんな植物が知らなかったから、こんな物だと思っていた。やはりどうしても孫の要る親戚の女性が「花まで咲いたのに孫はできない。」と嘆いたので「あら？」と思った。

或る日図書館で30センチくらいの高さで白い蘭に似た花が咲いているのを見かけた。

どうせ孫も増えなかったし、放っておいたら、小さいのが沢山生えていた。その中のいくつかを植え替えて、溝に溜った落ち葉をかぶせておいたら、芽はできなかつたけれど、大きくなって鉢からはみだしそうになった。二株ずつ窮屈そうにしていたのを、大きな鉢に一株ずつ植えてやると、のびのびと鉢いっぱいになった。子育て草と呼んでいる。

草といえば、庭の万両は、うちの祝い事があるたびに沢山実をつける。というより、まっ赤に実をつけると祝い事がある。娘たちの結婚、孫の誕生など。

金木犀が匂い出すとカナリヤ（？）が飛んで来て、きれいな声で歌う。初代の女子薬会長のご主人が亡くなら

れた時だったので、金木犀が匂うたびに思い出す。2、3年歌っていたけど、その後はカナリヤ（？）は見かけない。渡り鳥のカナリヤが居るかどうかは知らないけれど。

女子薬会長は姑と同じ寅年だったけれど、年を越えてお友達だった。（長崎に）原爆が落ちた後、ご主人のお父さん（医師）と一緒に、被爆した負傷者の手当てをなさったそう。長袖を着ていた方はあまりけがをしなかったそうで、白衣の着用の重要性をよく説かれた。同じ年頃の野川先生も、白衣のままトイレに入るなど、もつての外と憤慨されていた。白衣は神聖かつ清潔なものである。被爆した負傷者の救援については、「口述筆記をするから、記録を残しなんでしょうか」といったけれど、そのままになった。千人針を寅年の女は年の数だけ刺せるそうで、必ず刺してあげたそう。諫早大水害の時、長崎の女子薬剤師会が救援にかけつけられて、大層ありがたかったと、長崎の水害の時、よくおっしやっていた。

お彼岸の連休に孫一家と人吉に行ってきた。SLといさぶらうに乗って、球磨川の清流を下った。諫早には水を満々と湛えた川はない。（諫早湾を）干拓する前は、夕方になると旧眼鏡橋まで潮が満ちて来て、磯の香りかしていたものだが。

会社の近くの半造川の堤防を昼休みに歩いている。干拓に近いせいか、町とはちがう鳥が啼いている。今は鴨が沢山泳いでいる。子鴨なのか小鴨なのか、あひるより小さな鴨が居る。鷺も大小とりまぜている。鴨と鷺と一緒に居る。ねぎはしょっていないが。

お知らせ

平成23年5月21日（土）から22日（日）

神奈川県江の島で、40年卒の同期会があります。

## 昭和41年卒クラス会

平山 文俊（昭41）

先日、あるテレビ番組で認知症を予防するためには、常日頃から脳を活性化しておく必要があり、青春時代の記憶をたどることは脳を活性化し、よって同窓会は大きい効果があるという趣旨の放送をしていました。私達のクラスは最近になって毎年クラス会を開催し、大学時代の思い出話を花を咲かせ青春時代の気分に戻っているので、案外、若さを保つ一助になっているのかなと思う

次第です。

さて、今年のクラス会は6月、長葉同窓会に合わせて佐賀で開催しました。伊豫屋会長出身クラスであることから同窓会が盛会になるよう時期を合わせていますが、この時期は梅雨で毎年雨に泣かされています。今年も雨をぬっての移動となりましたが不思議と移動中は雨、見学時には雨が止む状況で予定のスケジュールどおりに行

動することができました。

参加者は関東からの3名など総勢12名で、地元の小川武子さんが久しぶりに出席されました。長薬同窓会懇親会の後、場所を変えてスナックでの二次会になりましたが、話に夢中でカラオケを歌わないまま時間は過ぎてしまいました。翌日は吉野ヶ里公園で再現された古代の集落、発掘された瓶棺等を見学し、マイクロバスで移動し、三瀬蕎麦の昼食、唐津市街を一望できる鏡山公園、虹の松原を經由し、唐津城、唐津くんち曳山展示場を見学し、宿泊先の長崎荘に到着しました。夕食はイカの生き造りなど新鮮な海の幸を堪能、その後一部屋に集まり、原田怜子さんのハーモニカと歌詞カードで童謡などを合唱し、皆で青春時代を飛び越えて童心に戻りました。

3日目、呼子の朝市で生きたアラカブが10匹程度で500円、他にも魚が安いのに驚き、土産の海産物を購入、豊臣秀吉の朝鮮出兵で有名な名護屋城、波戸岬の海中展望塔を見学し、玄海原子力発電所へ。丁度 MOX 燃料を搬入中で厳重警戒中であり、一部の展示物は非公開の中で見学。この頃から雨が土砂降り、呼子に戻りイカの生き造りで昼食、海鮮料理を続けて飽きが来ないか心配していたが杞憂に終わり、皆さん満足した模様。小城で羊羹屋に寄り佐賀駅、佐賀空港にて予定どおりに解散しました。雨のため帰りのJRはダイヤが遅れるなどで、最後まで雨に悩まされながらも楽しいクラス会でありました。



前列右から 松本功治、原田怜子、渡邊英子、平山文俊、  
後列右から 小川武子、太田和子、宮本眞秀、藤沢淳一、小野博正、伊豫屋偉夫、池淵紀代、黒田諒美

## 「花月」でのクラス会

井上 一顕(昭42)

昨年は東京でクラス会を行いました、今年久しぶりに長崎で行いました。私達の年齢も、もう66~67歳になります。私達のクラスは卒業時1学年45名のクラスでしたが、もうすでに6人の方が亡くなっておられます。この年になると、本人の体調が悪い人、親が高齢で家を開けられない人、また子や孫の都合で来れない人など8人もいて、出席できたのは11名だけでした。

今回はNHKの「龍馬伝」の人気もあり、全国的に有名になっている史跡料亭「花月」で行いました。幸運なことに宴会の会場は花月で一番有名な部屋「竜の間」でした。龍馬の刀創のある床柱を背にして、花月の庭園を

見ながら長崎名物「卓袱料理」をいただきました。卒業以来初めてという人もあったのに、すぐに45~48年前の学生時代にもどり、話に花が咲き楽しい一夜を過ごすことができました。

次の日は、希望者だけ長崎見物をしました。卒業後の変わった長崎を見ようということで、まず旧薬学部(現在の附属中学)、現在の薬学部、ノーベル賞を受賞された下村先生の下村記念館、地下の展示になった原爆資料館、それに併設する原爆死没者追悼平和記念館、稲佐山展望台、復元された出島、(昼食には新地でチャンポン、皿うどん)、グラバー邸が拡張されて出来たグラバー園

などを見学しました。その他、一部の方は龍馬伝で人気の亀山社中、鳴滝のシーボルト記念館、遠藤周作の作品の舞台になった外海の遠藤周作文学館なども見て回りました。

卒業以来ほとんど長崎に来ていない人もいて、40数年の時の経過に感慨深くなった人もいたようです。私達はあと3～4年で70歳になります。元気に活躍できるのもあとそう長くはありません。竹尾くんは数年前大腸がんを手術し、つい最近脳梗塞もおこされたそうですが、その体で出席していただきました。もう何回も出席できないかもしれないと思って出席いただいたようです。それでも昔のように明るく話をされていたのには感動しました。人は年をとると、昔の思い出話が楽しく、気持ちもその当時にもどります。過去に喧嘩したことも、懐か

しい思い出のひとつです。残された人生を楽しく過ごすためにも今からときどきこのようなクラス会をやりたいというみんなの意見でした。次回は、大阪での開催を希望する人が多かったようです。(梶野さんよろしく！)

話は変わりますが、今回出席された樋口宗司くんが近々小説を出版されます。彼は数十年前から小説を書いており、彼のライフワークになっているようです。今までには、仙台文学などに投稿されて、薬学などをテーマにした小説を書かれていました。正式な本の形での出版は今回は2作目になるそうですが、同窓生のみなさん、彼の小説を一度読んでみてください。薬剤師の書いた小説ですので共感する部分が多いはず。小説の題名は「テロメアの報復」です。よろしくお願いいたします。



平成22年10月16日 於 花月

## 台湾滞在記 - 台南訪問 -

富永 義則 (昭44)

台湾に来て6ヶ月が過ぎた。後一月無事に過ごせればと思いつつ10月に65歳を迎える。その頃連先生から台南(台湾の南西部の都市)へ行かないかと誘いを受け、気安くというか単純に反応して付いて行く事にした。一度は尋ねてみたいと思っていた台南である。これまでに台北市、淡水市を中心に日本統治時代の総督府をはじめ、オランダとの交流時代の色濃く残る紅城レストラン、台北市の小籠包で最も有名な鼎泰豊等々数々の名所史跡を案内してもらっている。

実験をしようと思いをいれての台湾での研究生活、観光気分とは少し違いも有った。何時ツツジが咲いたか、



何時鮮やかな若葉が芽吹いたのか気に留める事無く実験に時を重ねての台湾暮らし、悔いなくこれまでやって来たと確かに言える。定年真近の気楽な暇つぶしと思われたかもしれないが、本人は至って真剣そのもの、それなりの緊張の連続、試薬が何処に有るか、器具が何処に有るか、廃液はどうすれば良いか、機器データは自分で測定するのか、依頼するのか学生に聞かなければならない。相手の学生の雰囲気を読みながらの対応、これが以外と難しい。学生が、こちらの言動に気を使うのがわかる。全く場違いの他人の研究室での実験、どのような理由でこの実験室を使えるようになったのか、その経緯も分からないままのスタート、いちいち、これは使っていないでしょうかと尋ねてからの使用、試薬棚の試薬を使う場合はさらに気を遣う。後は結果を出すのみ、気楽ではない。その雰囲気は2ヶ月過ぎた頃から淡江大学化学科の先生達にも自然に理解してもらった。迷惑に思われないうちで来た。実験も直ぐに取りかかれるようろ紙をはじめ、ホットプレートスターラ、三角フラスコ、ナス型フラスコ等々簡単な最低限の器具を用意して来た。実験器具と言え程のものでないが本当に用意して来て良かったと思った。実験自体は、ただ試薬を混ぜるだけの実験で誰にでもできる世界一簡単な実験である。

実験は何から始めるか、それが問題だった。まずは、私達の研究結果に興味を持ったある化学会社の希望したテーマから始めた。それは溶液状態で緑色に光る発光化合物の合成だった。連絡を取り合っているうちに、緑の発光体を7月いっぱいまで合成して欲しいとのこと。4月1日から実験ができるようにと淡江大学に連絡をしていたつもりが、4月1日に化学科を尋ねてみると、今日からゴールデンウィークで1週間休みと告げられる。学校に学生はまばら、研究室には入れない。どうなっているだと思いつつもこの事実を受け入れざるを得ない。1週間後すでに頼んでいた試薬は来ているかと尋ねれば、これから注文するとのこと、啞然。試薬は何時来るかと質問すれば、2~3週間必要との事。さらに啞然。定年間の老人の扱いはこれ位のものです。実際実験するなんて思っている筈ないんです。こちらが勝手に早合点してしまったという事です。

試薬が手元に届いて原料合成ができたのが5月半ば、予定より一月遅れとなってしまった。しかし会社からの依頼品は5月末には完成し、6月14日の淡江大学との共同の国際シンポジウムでの発表に間に合った。後は面白いばかり、楽しいばかり、色々な展開ができた。この結果は7月24日に開催された“3rd Keio University/Tamkang University Bilateral Symposium of Advanced Chemistry”での招待講演になった。

さらに9月半ばから次のテーマに取りかかった。何か面白くなりそう。しかし時間が無い。今から試薬を頼めば10月半ばに成ってしまう。それでも実験するか？さて、今回の本題に入ろう。

## 台南を尋ねて

台湾の西南部にある台南は、台湾の地名の由来にも成っている Tayowan と呼ばれる先住民族が住んでいた所。台南は台湾文化発祥の地と言われ、台湾を知るにはまず台南からと言われているようです。それで前述したように台北、淡水の北部はこれまでも何回か案内してもらって知ってはいるが、多くの人が台北を中心とする北部はよく知っていると思いますので、今回尋ねた台南を紹介します。

まず、私が研究している場所は、台湾の北部、台北の北東部に位置する淡水川の河港にある人口5万くらいの中堅都市です。台北駅から地下鉄で30分くらい。台南はこの台北から日本の協力で完成した新幹線で1時間46分くらいの所に有ります。まずその車窓から見える風景を紹介しながら台南まで行ってみます。

この新幹線は15両くらいの連結だと思われたが確かではない。その5両目に乗った。台北は淡水川の北部以外は山に囲まれている。台北市は世界有数の高層ビル101に代表される高層ビル群が立ち並ぶ近代都市であるが、周りの山を抜けると緑深い山の中になる。しばらくすると西側は広大で真平な平野が台南まで続く。こんなに広いとは想像していなかった。佐賀、筑紫平野よりも遥かに大きい。台北から1時間程の所の台中まではそれなりの町で遠くには高いビルが有る。しかしビルの合間には田園が残っている。嘉義近くから次第に田園だけが見えてくる。見渡す限りの田園風景。大部分が稲作に見える。区画整理の進んだ近代的な田園で豊かさを感じる。日本でイメージしていた小さい区画の近代化から取り残された田園ではない。むしろ効率の悪い日本の方が遥かに遅れている。南部に行く程新幹線の駅近くは将来を期待して道路と広い土地が確保されている。駅の遠くにビルが見え、町はそこに有るのだろう。何か違和感がある。全くの車社会想定都市計画になっており不安はないのだろうか。

台南駅に着いても周りには新しく整備された道路はあるが商業活動の姿は見えてこない。周りにも全く見えない。ホテルのある街まで行くのに1時間ぐらいついた。22階建ての西洋式最新のホテルであった。15階のホテルの窓から高いビルが結構な数見える。大きな都市だろうと思われる。15時頃に台北を出てこのホテルに着いたのが17時頃。18時に夕食、ゴージャスな夕食となった。

翌日、連先生の教え子の李夫妻に市内を案内してもらった。朝9時にホテルのロビーで待ち合わせ市内観光の始まり。この台湾大億ランデイスホテルの近くに多くの史跡が残っている。市定古跡台湾府城の大南門、鄭成功石像のある延平郡王祠、国定史跡のツカンロー、孔子廟、この廟の前にある門前町風の府中街、他にも日本時代の建物も残されている。午前中に回れたのはこれくらい。それぞれじっくり見てまわればそれなりに台湾の置かれた歴史がある。

その後も日本式庭園に日本式の立派な家屋が保存されている所、オランダ時代の城跡、清朝時代の史跡等々、これらが歴史の流れを感じさせない。そこに時代の区別なく、また統治者が誰であったかも意識する事なく、違和感もなく感じられるのは何故だろうと思う位、それぞれがしっかりと土着の文化になっている。台北と違う、宜蘭や花蓮とも違う、この違いが大事と思う。

ここで一旦、李さんの実家でお茶をごちそうになる。中国式のお茶でゆっくり、ゆったり団らんの中にとけ込んで行く。この雰囲気が好き。それぞれの家を探ねると必ず中国式のお茶を経験する。それぞれに自慢するセットを備え、それぞれの主人の歴史が刻まれている。ここでの話の中で突然に聞こえて来たのが剣道の竹刀の話、これらの竹刀は現在その70~80%が台湾で作られている、との事、実際その竹刀を見せて貰った。帰り際にはその竹刀2本をニコニコしながら手に持つ事になる。よほど欲しそうな顔をしていたのだろう。しかし嬉しい。



#### 虎頭埤

この日の夕食は台南の街中から1時間程車で行った山の中だった。ここの裏手の山から見る朝日が素晴らしいとのことだった。ここは山の中、山小屋風で我々6人以外は誰もいない。バーベキュー用の設備があちこちにある。またイノシシ料理用の石板が無造作に置いてある。我々6人は屋根のあるテーブルに陣取った。周りには20個位のテーブルが有る。人気の店なのだろう。しばらくして暖められた黒っぽい壺が持ち込まれた。その中にメインの料理が入っているらしい。どうぞという事で真っ先に口にすることになる。分厚い角煮風の肉塊、口に入れてみる、肉独特の甘みはない、ゼラチン様の舌触り、ちょっと苦みがある。悪くはない。これなら食べられる。スープも勧められる。普通の肉のスープではない。かと言って魚でもない。

この料理の事を少し説明しておこう。先ほどの壺にヤギの肉とそれに色々な薬草を入れ石の竈で3日間じっくり煮込んだ薬膳料理だそうです。それでスープが若干苦みを持っている事に納得した。この他に通常の野菜料理とタケノコご飯が出て来た。タケノコご飯は炊き込みご飯の様な味がした。

今日の宿泊地はここからさらに山の中に入った所にあ

る国民宿舎と同じような施設だった。今日は疲れた。布団に入り目覚めた時はもう朝だった。朝6時に連先生と散歩する事にした。ここの湖を一周するのに約1時間掛かるらしい。朝の散歩としては手頃。台湾に来て健康のためと良く大学の構内を散歩した。

センターから下の道路をみるともう沢山の人が急ぎ足で歩いている。一人だったり、二人だったり、また数人のグループもある。日本だったら初秋の湖畔の散歩だろうが、ここでは緑で青々している。台湾に秋はない。人も多い。入り組んだ入り江のような所には流木の塊がある。台風の影響らしい。路は適度に舗装されている。所々は木組み、木の道路になっている。ちょっと小高くなっている所は広く見渡せるように展望所になっている。そこからみるとこの湖はかなり広い。朝食の後この湖を遊覧船で回る事になる。しばらく歩くと吊り橋が見えて来た。渡ってみる事にした。しかし橋の対岸に着くもの思っていたが途中で終わっていた。この橋も日本人が作ったとの事。新しくなっているがその土台は昔のままらしい。そこには丸い典型的な中国風の休憩所があり、若い男女の出会いの場所になっているらしい。八方から気が集まる幸運の場所で、ここで願い事をすれば夢が叶うらしい。幸運は既に貰っている。昨日までの雨は止み、最高の旅行になっているのだから。水門の近くに来た。ここは土手になっている。今はセメント作り、かつて洪水で決壊し相当数の犠牲者が出たらしい。日本人が作ったなら土手には柳が植えてある筈だが、ここには見当たらない。しかししばらく歩くと多くはないが確かに柳が有る。今の日本は柳の土手は見られない風景になっているが、柳は八方に密度高く根を張り土手を頑強にする。この人工の湖がこの地の治水にどんなに役立ったか計り知れない。台北から台南までの大平野の治水の完璧さ、さらにこの湖の治水管理に驚きである。先人は賢い、すごい。一汗かいた1時間だった。

朝食のあと太陽電池で動く船でのクルージングを楽しみ、またコオロギの格闘技も見た。面白かったが、ちょっと残酷な気もした。

#### 草山308高地

奇怪な山が有るという草山308高地に向かった。前日の疲れか、車の中ではついつい眠ってしまった。308高地の標識が見えた。もう大分の高さに来ている。曲がりくねった、車一台がやっと通れるような山道を登った所は、もう全くこれまでの台南での経験では考えられない風景になっている。眼下は三角型の緑色まじりの灰色のトンガリの帽子を並べたような山並みになっている。のこぎりの刃を上にしたような光景でもある。それが遠くまで、遠くにかすむビルの建物の所まで続いている。目線が下に有るためか空が非常に広く感じられる。右手の方は高雄市の方角と思うが、台地の形をした山の麓まで、左は台南市方角、今日は天気に恵まれているので遠くまでその光景が続いている。最も眼下に近い所の山は左側、

つまり北側は緑のリボンで縁取りをしている。南側はそれぞれの山の急斜面で灰色、砂の色、その谷底には一部緑が有り川が流れている。また人家も有るようだ。この風景が見渡す限りの視界にある。村上春樹の小説「IQ 84」の月の風景や加藤まさをの「月の沙漠」の情景が浮かんでくる。この風景に月がびったり来る。このような句はどうだろう。

砂山の大海にうかぶ月あかり  
この景色の中でビールを飲みながら、台湾料理を楽しみ、

ただ見ているだけ。食べては遠くを眺め、また食べる。しかし何を食べたかは覚えていない。しばらくすると世界遺産にはどうだろうという話になった。皆納得。なんとかしたい雰囲気になる。この壮大なパノラマを後に台北への帰途につく準備をしていると急に霞が掛かり何も見えない。舞台の幕が下ろされた。なんと不思議！

本当に楽しい思い出に残る台南への旅行でした。これ以上の表現は私には無理です。是非一度尋ねてみてください。  
(平成22年10月12日)

## 47年卒業生リレー通信

松本 逸郎(昭47)

昭和47年卒の皆様、お元気でしょうか。同窓会近況便り『リレー通信』も今回で4回目となりました。クラス会報告が近況便りの締め切りに間に合いました。我々の年代もそろそろ定年になった方がいるのではという思いつきで、リレー通信のテーマを『定年』に数人の方に寄

稿をお願いしたのですが、皆さんまだ定年に達していないとみえて寄稿がありませんでした。枯れ木も山の賑わいで私の近況を報告します。なお今回のクラス会で、次回を『2年後に九州でやる』という申し送りでした。九州在住の方には別途お願いする次第です。

## クラス会報告

クラス会幹事 西垣 敏明(昭47)

昭和47年卒クラス会を本年9月24日から27日までの日程でインドネシアのバリ島で開催致しました。昨年6月にバリ島で挙行する計画でしたが、ご存じの通り豚インフルエンザ世界大流行の余波を受け、見送りとなった経緯があります。大多数の同窓生は現役の医療従事者であり、来るべき大事件を前に行政機関や病院、薬局を1日たりとも離れることができない、インフルエンザに罹っては大問題との危機的な状況にありました。

本年、豚インフルエンザ流行の終息を受け、改めてバリ島での同窓会を開催することに決めました。参加者は4名という少人数になりましたが、九州より夜行バスに乗り、また神戸に前泊するなどして、関西国際空港に24日午前9時に全員集合。ガルーダ・インドネシア航空新エアバス機にて、ビール・ピントンを飲みながら5～6年前同窓会開催地の台湾、フィリピン、インドネシア・セレベス島上空を超えバリ島デンバサルまで6時間余りのフライト。赤道を超えた南半球での同窓会は初めて。インドネシアは日本より古くから薬用植物が開発・利用された国でもあり、薬学徒としては同窓会開催地として適切な地。

ヒンズーの神々が住むバリ島は、東南アジアのリゾート地。芸術の村ウブドの宮廷でのレゴンとパロンのダンス鑑賞から始まり、有名寺院への参拝・祈祷、更には伝統的医療従事者バリアンによる祈祷と施療、バリ島

料理三昧、買い物値引き交渉を今回不参加の同窓生分を含めて楽しみました。全員1時間半800円のバリ島マッサージで疲れを癒すことも忘れません。

バリ島で最も落ち着きがあり、ウォーレス線を眼前に位置するサヌール地区のコテッジでは、夜遅くまで40年近く前の四方山話に花が咲き、60歳を超えた近況の交換をもできました。今後の生き方についてお互いに披露し、協力関係も出来上がりそう。3泊4日(関空までの1日分を足すと4泊5日)のバリ島での同窓会は、短いもの



昭和47年卒同窓会 於：インドネシア、バリ島、  
INNA Grand Beach ホテル  
前列左から後藤、大石、後列左から蓑田、西垣

の充実したものでした。よく食べ、飲み、動き、喋り、健康被害もなく27日朝閑空で来年の同窓会での再会を誓い解散。

追伸：同窓会に関する記事、写真、動画は下記をご訪問ください。

[http://www.tropicalmedicine.jp/47\\_alumni.htm](http://www.tropicalmedicine.jp/47_alumni.htm)

## 『畑を耕し、種を播いて、10年目に花が咲く』

松本 逸郎（昭47）

私が勤務する長大医学部でのことです。話は10年以前にさかのぼりますが、講義室近くに100㎡ほどの荒地があり、使用済みの資材の置き場になって見苦しい状態でした。何とかならないかと思っていましたが、学生時代に数人の仲間と立ち上げた薬学部の花壇のことが頭に浮かんだのです。この花壇はその後同窓会事務局と下村記念館になった由。その伝で、ここに花壇を作ろうと、職場の仲間と計り園芸部を立ち上げ、趣意書と設計図を書き、事務長（池田治子氏の夫君）と学部長（斉藤寛前学長）に直訴いたしました。

快諾を得て3ヶ月後には80名ほどの教職員、学生、近所の皆様の見守る中で、命名式（幕末に長崎を訪れたオランダの科学者ツンベリーにちなんで、ツンベリー園と命名）と苗の植え付けを致しました。その後の数年は初めての教職員だけで、新入生が出そろう頃にはパンジー、チューリップを、夏休みから帰ってくる頃には、サルビアや菊をと四季の花を楽しんでおりました。しかし、時がたつにつれ定年で一人去り、職場の事情などで二人去りし、とうとう私一人になってしまいました。放り出すわけにもいかず、資金も枯渇する中で孤軍奮闘する期間が数年続きました。そのため種子が安い野菜（ピーマン、オクラ、タマネギ、ナス、サツマイモなど）に切り替えたりもしました。学生にとってはスーパーに並べてある野菜は目にしても、実際畑に生っている姿を知らないし、ましてや野菜の花など見たこともないので、それなりにインパクトを与えたと思います。

週の数日の昼休みを一人で荒草をひいたり、水撒きしたりしていると、必ず何人が職員や学生が寄ってきて『何してる！』と声をかけてきます。私は『釣り！』と答えることにしていました。その返答に10人が10人とも『？！』と怪訝な表情をしますが、そのうちに勝手にしゃべり始め、気持ちが収まると『頑張ってるね！』と来た時よりも少し和らいだ顔つきで立ち去っていきます。殆ど話の中身は私にとってはちっとも面白くはないのですが、人と話すことで癒されたのでしょうか。学生の中には講義のこと、サークルのこと、友達のこと、家族のこ

となど様々なことを話していきます。私は『みんな大変なんだなあ』と感じるとともに『気分は晴れたかい！』『今日も3匹ゲット！とノートに書いておこう！』とつぶやくのです。しかし不思議なことに、殆どの人と一緒に草をひいてくれないのです。ただ自分のことをしゃべっているだけです。これまで手伝ってくれたのは、学生1名、近所の人1名だけでした。ではあるが、よく考えてみれば癒されていたのは、この自分だったのかも知れないと思っています。

3年ほど前に医学部創立150周年記念で、ぐびろが丘に『ひなげし』を植えた学生達が尋ねてきて、この花壇を使わせてくれと申し出たのでした。『ぐびろが丘』は由緒のある場所ですが、山の上であり、いくらきれいな花を植えても殆どの人には触れないのです。私は密かに同情してもらったのですが、連中は皆の目に触れて、間近に見ることのできる、この一等地のガーデンに目をつけたのでしょう。私はその時は、体力も気力も時間も無くなっていましたので、喜んでその申し入れを受け入れたのでした。元々のこの企画が学生自身で運用することが目的でもあったからです。落ち込んだ学生がガーデニングで気分転換してくれること、将来医師になったときに、心身症などの患者のためにガーデニングセラピーができる訓練のつもりだったのです。やっと10年目に花が咲いたよう気持ちで、『当たり！』と快哉を唱えたものです。せっせと撒き餌し、垂れた釣り針をばくりと飲み込んでくれた感触は、何者にも代えられぬ堪えられない一瞬でした。

3年たった今、四季折々の花が咲き、野菜がたわわに実るツンベリー園の側を私が通っても、学生は知らん顔でガーデニングを楽しんでいます。少し気になって声をかけてみると『してやったり！』と言う顔をして、にこやかに話に乗ってくれます。私は手伝いもせず話だけして、『頑張ってるね！』と声をかけてバイバイします。きっとその学生は『1匹ゲット！』とつぶやいているかも知れません。

## 昭和50年卒（卒後35周年）同窓会（2010年10月9日開催）

木野 省三（昭50）

当日は、「長崎くんち」の後日（最終日）であり、大勢の観光客で混んでいましたが、大変良い時期の開催でした。また、西村幹事が遠方からの私たちにホテルを確保してくれたことを感謝します。

「おくんち」といえば、大学4年生の前期試験終了の夜、諏訪神社の長坂（正面階段）にてサークルの後輩を連れて酒を酌み交わし、翌朝にはNHKのアナウンサーの横に居座る私がずっとテレビに映っていたという良い思い出があります。

また、20年前の「長崎大学薬学部創立100周年記念式典」には、幼稚園児の長男を連れ出席し、長崎駅に降り立った瞬間に雲仙普賢岳の噴火があったという忘れられない思い出もあります。

同窓会会場は長崎駅前の「ホテルニュー長崎」でした。懐かしい128名の顔、顔が待ち受けていました。皆さんとお会いするのは実に35年ぶりとなります!!

私をサイクリングクラブに誘ってくれた石田・萱島さん。実習パートナーで迷惑をかけてしまった黒崎さん。1年生の春の山陰ツアー（サイクリング）でお世話になった川神さん。大橋先生、栗林先生の下でアサリのバター焼きを賞味した同じ教室の白石・寺沢さん・浜田さん。落ち着いた姉御肌の松尾さん。実直な江口。一瞬にして学生時代に帰り、共有する時間を楽しく過ごすことができました。他にもたくさんの方々にお会いでき、懐かし

さで胸がいっぱいでした。さらに2次会まで談笑が続きました。

翌日は松田のボランティアガイドで「長崎さるく」を楽しみました。コースの伊良木界限はNHK大河ドラマ「龍馬伝」の舞台であり、観光客でごった返してました。ただ、寺院の片隅に真っ黄色の曼珠沙華が一面に咲いていたのは印象的で、ご主人と一緒に嶋田さんや息子夫婦を連れての橋間・高瀬さんのご両人は仲睦まじくうらやましい限りでした。

「龍馬の道」コース：風頭公園＝小川凧店＝龍馬の像＝若宮稲荷＝亀山社中を案内していただき、最後は歴史博

### 長崎大学薬学部同窓会【昭和50年卒】



物館で「実録 坂本龍馬展」を見学しての解散でした。

学生時代、私は学業よりは全学サークルでの人間関係作りを魂を入れ込み、3年生の時は数多くの方からノートを借りることになりました。宮崎県方式の大嶋さんのノートはすばらしかった。多くの皆さんの力添えがあったから無事に卒業できたのです。社会人となってからは、製薬会社、卸、病院で働いたあと、200年の歴史がある家業の薬局を継ぎました。江戸時代には長崎の出島から、ラクダやゾウが、東海道五十三次の真ん中二十七番目の宿場町となる当店の前をのっそのっそと歩いていたと考えると連綿と繋がっていることに想いはせませす。静岡県内でも有数の進学校のPTA 役員をやり、地元支部を立ち上げることができたのも、学生時代に培った人間把握力のおかげです。2年後は緒方幹事で福岡開催を予定しています。同期生の皆さん、ぜひ出席し、私と同じ感動



を味わってみませんか？

最後に...今回の同窓会、「君の瞳に乾杯」ならぬ「青春の日々に乾杯！」でした。

(本人談：男性軍の氏名には敬称を略しました。)

## 【昭和55年卒】大阪にて同窓会を開催

鈴木 潤子 (昭55)

2010年10月9日土曜日、昭和55年卒の「卒業30周年記念同窓会」を大阪にて開催しました。三連休の初日である9日、朝はあいにくの雨、午後から次第に曇りとなる涼しい一日でした。今回は5年ぶり3回目、長崎以外での初めての同窓会です。

大阪の真ん中、なんば道頓堀での同窓会は、皆が集う貴重な時間を惜しみ、懇談会・同窓会・二次会を同じ施設内で行い、そのまま施設に一泊するという企画。さらに、翌日は関西観光を楽しもう！というオプションを提案した企画です。5年前に長崎にて同窓会を開催した際に、「関東や関西など遠隔地在住の方が参加しやすいように大阪で開催してはどうか...」という提案があり、これを実現したものです。

薬学科11名、製薬化学科15名の計26名(男性9名、女性17名)が集いました。関東より7名、中部より1名、関西より4名、中国より2名、四国より2名、九州より10名と、14の都府県の方が参加してくれました。

同窓会の始まる3時間前から懇談のための一室(畳敷きの広間)が設けられ、開始1時間前には大半の方が到着していました。5年ぶり20年ぶり30年ぶりの挨拶です。すぐには思い出せない人も、話すうちに声・仕草・雰囲気ですぐにだんだんと当時の姿が浮かんできました。牛尾さんが持ってきてくれた卒業アルバムのコピーが、会話の糸口となり記憶を紐解くきっかけになりました(ありがとう!)。この懇談の時間で座がほぐれ、同窓会は和気あいあいの雰囲気が始まりました。

同窓会は、宴会場での会食です。幹事代表の川邊君の挨拶で始まり、集合写真撮影の後、一人ひとりの近況報告となりました。30年ぶりに顔を合わせた人々のため

に、30年間の色々を圧縮して話して下さった方もいました。うなずいたり驚いたりして聞き入りました。終盤近く、当日の仕事を終え長崎から財部さんが駆けつけてくれ、再度集合写真を撮影しました。

53歳前後の私たちですが、女性も薬剤師の仕事が続いている方がほとんどで、子供のいる方は、既に子育て一段落の方、最終段階の教育費に奮闘中の方が多数でした。なんと、一週間前におばあちゃん(多分同期で一番乗りでは?)になられた方もいらっしゃいました。こうして遠出し一泊できる余裕が得られたのも、子供の成長や仕事のお陰といえそうです。最後に一本締めをして、18時半から続いた同窓会は22時近くにお開きとなりました。

二次会のために懇談会をした広間へ移動。買出ししていたお酒やおつまみを持ち込み、紙コップで乾杯です。まるで、学生時代何度もお世話になりそして大いに盛り上がった集会所や研修旅行のようでした。50歳を超えたおじさん・おばさんが、学生時代に声高にしゃべり笑うひとときでした。深夜になり二次会はお開きとなりましたが、有志十数名は、有名な千日前商店街界隈をぶらぶら歩き、締めのラーメンを食べるといった(50代にとっての)暴挙を楽しみました。

宿泊は24名。男性一同は、二次会会場となった広間をザッと片付けて布団を並べました。女性は4~6人の相部屋です。寝静まった中、小さな声で話すひとときも懐かしいような得難い時間でした。

翌日、揃って7時30分から朝食をとり、一応解散して関西観光に赴きます。天気は曇りのち晴れとなり日中は汗ばむほどの温かい一日でした。事前に計画を練った方、その話に乗った方と様々ですが、奈良観光へ二組10

名ほど、大阪観光へ一組8名が出発しました。ご家族と待ち合わせて家族旅行をした方もおられます。

今回の30周年同窓会は、浅田君、河野智子さん、御手洗さんと私が幹事として当日手伝いましたが、計画・手配・準備・進行から写真のプリント・発送に至るほとんどを川邊君が執り行ってくれました。この場をかりて、改めてお礼を言います。

さて、次回は5年後、長崎にて35周年記念同窓会を開く予定です。万難を排しての参加をお待ちしております。それまで、どうぞ皆さまお元気で。

(本文中の名前は旧姓のみを記しております。下記出席者一覧を参照願います。)

出席者(敬称略)

[東京より]高倉(松本)美香子

[埼玉より]阪部一史、横山(河野)智子

[千葉より]近藤(栗田)純子

[神奈川より]山本吉延、成内(貴島)光代、菅(桑原)直美

[愛知より]谷川(三重野)七恵

[大阪より]川邊庄司

[兵庫より]興津(秋枝)潤子、西岡(山口)弘子、鈴木(松尾)潤子

[島根より]斎藤(宇野)典子

[山口より]橋本(牛尾)直美

[愛媛より]仲井哲也、林(御手洗)雅子

[福岡より]浅田久継、時枝(平井)紀子、田尻(原)真由美

[長崎より]大田佳史、三井義則、高橋広毅、高橋(橋本)和代、田原(財部)裕子

[大分より]都留君佳

[鹿児島より]池田(河野)ひさみ

以上



平成22年10月9日 於 大和屋本店(大阪)

## 昭和56年卒 プチ同窓会

川邊 智子(昭56)

2010年10月9日土曜日、関西在住と軟式テニス部のメンバーとの7名で、プチ同窓会を開催しました。場所は、大阪なんばの大和屋本店。参加者は、山口県山陽小野田市から瀬戸(佐倉)久美子さんと江本(嶋田)佳子さん、神戸から井上(鷲崎)道子さん、奈良から岩松(松田)節子さん、大阪からは、田村(山田)愛子さん、原(山元)美和子さんと 川邊(和田)智子です。

まずはお昼に、瀬戸さん、江本さん、川辺とで、大阪

名物お好み焼きを食べたあと、京橋花月へ吉本若手芸人のコントを見にいきました。その後、道頓堀を散策、グリコの看板や、くだのおれ太郎を見ました。

仕事を終わって駆けつけた4人が合流して、同窓会が始まりました。子どもが小さい頃は、年に1回くらい関西圏のメンバーで集まっていたのですが、最近はなかなか会えず、4年前の長崎の同窓会以来です。

近況報告をしながら(結構皆さん仕事、趣味にと忙し

日々を送っていますよネ!), 楽しいひとときを過ごしました。会食には、たこやきを自分で焼くというセッティングがありましたが、皆さんなかなか上手に焼きましたよ!

こちらがお開きになったあと、同じ旅館内の一学年上の「昭和55年卒業30周年記念同窓会」の宴会場に押し掛けました。

実はこれは、一学年上(昭和55年卒)の代表幹事である私の夫と仕掛けた、軟式テニス部の先輩方や研究室の先輩方へのサプライズ企画でした。先輩方は、「なぜ、この場所に後輩の君たちがいるんだ?」と大変驚かれ、その場が大いに盛り上がりました。卒業以来お会いする部活の先輩方、研究室の先輩方とのなつかしい再会でした。



その後、4人(宿泊組+川邊)で、大阪で有名な「ベティのマヨネーズ」のショー(ニューハーフ)を見にいきました。ニューハーフの方はとても綺麗で(肌や髪のおつやに50過ぎの女達は羨望のまなざし!), おしゃべりも楽しく、ショーは、妖艶でそしておもしろいものでした。

翌日は、4人で奈良へ。遷都1300年祭を見物したあと、東大寺で大仏さんを拝観。興福寺の阿修羅像を50分待ちで見ました。皆さん、奈良は中学の修学旅行以来と、なつかしそうです。歩いて歩いてのコースでしたが、「明日は筋肉痛!」といいながら頑張って歩きました。

来年は、私たちの「昭和56年卒業30周年同窓会」です。また、皆さんと元気に再会できるよう、日々、健康と美容に精進していきたいと思います。



## 今年も「シバカリ会2010」が温かな雰囲気の中で開催されました

中嶋 幹郎(昭57)

平成22年11月6日(土)、福岡市天神の「アークホテル博多ロイヤル」にて、昨年夏に引き続き今年も「シバカリ会」が開催されました。今回は何故か「シバカリ会2010」というイベント名にしたのですが、そのかいもあってか前回は越える60名近くの教え子が集まり、柴崎先生ご夫妻を囲みながらとても温かな雰囲気の中での開催となりました。

前回の平成21年9月の「シバカリ会」は約3年ぶりの開催でしたが、今回は、昨年の「長薬同窓会報」でお約束した通り期間を空けずに1年後の集まりとなりました(幹事も頑張りました)。また前回は出張先のイスタンブールから心温まるサプライズ・メールを下された小西先生ご夫妻にも来福して頂くことができたため、一段と愉快で楽しい「シバカリ会2010」となりました。

この「シバカリ会」の存在を40歳代以上の長薬同窓生の皆さんは知っていると思いますが、若い同窓生のために、どの様な集まりかを最初に説明しておきます。

本会は長薬の名門中の名門? 薬剤学研究室の先々代の教授・柴崎壽一郎先生の教え子の集まりで、私が長崎大

学に入學するずっと前の昭和40年代から続いている歴史ある研究室同門会です。会員は昭和30年代後半の卒業生の先輩から平成に入ってからの卒業生の後輩までで、人数は200名を越えています。私はこの「シバカリ会」が大好きで、柴崎先生の門下生となって以来、毎回欠かさずに出席しています。また現在は母校の長崎大学薬学部勤務していることもあり、「シバカリ会」の連絡係を務めさせて頂いています。

教え子の皆さんはご存知の通り、柴崎先生はこの様な集まりがとても苦手だと何時もおっしゃっており、「シバカリ会」の折には、毎回、誰かが福岡県甘木市のご自宅へ先生をお迎えに行き、先生と奥様を会場までお連れすることが常でした。しかし、今回は昨年の「シバカリ会」の折に「皆が良ければ、来な~あかかな~」とおっしゃってくださったこともあり(この件を柴崎先生は否定されていましたが、私はしっかりと記憶しています)、今回は万全の体調で参加して頂いたご様子でした。本当にありがとうございました。

今回の「シバカリ会2010」も前回と同様に、私と同級

生の三浦修己くん（昭57）の二人が幹事役を務めました  
が、三浦くんの上手な司会進行のおかげで、参加者全員  
がステージに立ち、それぞれの近況を紹介し、柴崎先生  
と小西先生のお二人へメッセージをお伝えすることがで  
きました。

この「シバカリ会」では、学生時代に薬剤学研究室で  
一緒に過ごした先輩、同級生、後輩と当時の懐かしい思  
い出を語り合ったり、また今の仕事や家庭の近況等を話  
し合ったりすることができ、私はいつもその中から元気  
をもらっていると感じています。今回も懐かしいメン  
バーと会うことができ、とても幸福でした。「長薬同窓  
会報」への報告の折には必ず書かせて頂いておりますが、  
このような素敵な研究室に入ることができ、薬剤学研究  
室で柴崎先生と小西先生に教えを賜った自分は、とても  
幸運だったと心から感謝しています。しかし「シバカリ  
会」に参加して一番嬉しいことは、今の柴崎先生の元気  
なお姿を拝見しながら、また柴崎先生と小西先生との掛  
合い？をお聞きしながら、自分が学生時代に薬剤学研究  
室にいた時と同じように、先生方の楽しい大阪弁調子の  
マシンガントークを聞かせて頂けることです。このトー  
クの渦の中にわが身が溺れていく心地良さは、先生方の  
教え子にしか理解できないかも知れませんが、私にとっ  
てはとても癒されている気持ちになるのです。今回の「シ  
バカリ会2010」でも先生方のトークは健在で、会場は温  
かい爆笑の渦に包まれていました。

さて、皆さんが気になる今回の「シバカリ会」ですが、  
翌日の朝食会場で私が柴崎先生にご確認したところ、ス  
テージからの皆さんの願いがかなったのか、「皆が集ま  
る日を教えてくれて、その日の体調が良ければ、来な～  
あかんかな～」とおっしゃってくださいました。これは、  
つまり「来年も集まる日を設けて宜しいとのお許しが出

た」ということなのです。素晴らしい!! ありがとうございます!!

そこで、「シバカリ会」会員の皆さんに今回も宣言し  
ます。次回の「シバカリ会」は平成23年に、場所は今回  
と同様、福岡市にて開催させていただきます。小西先生のご  
都合を伺ってから日程を考えさせていただきますので、小西  
先生、宜しくお願い致します。もちろん、三浦くんも宜  
しくお願いします。

それでは、平成23年も「シバカリ会」会員の皆さんと  
柴崎先生、小西先生が一同に集う会が開催できると思ひ  
ます。今回、欠席された皆さんとは、是非、次回の「シ  
バカリ会」でお会いしたいですね。

今回も、実に楽しい栄養たっぷりの「シバカリ会」を、  
教え子一同にプレゼントして下さった柴崎先生並びに小  
西先生に感謝するとともに、先生と奥様方の益々のご健  
康を祈念して報告とさせていただきます。

今回の出席者は次の通りでした。なお、間違い等があ  
りましたら何卒ご容赦ください。

恩師：柴崎壽一郎先生ご夫妻、小西良士先生ご夫妻  
教え子：柴田智加恵、田中 博輝、江藤 好信、

黒川 征史、伊豫屋偉夫、太田 和子、  
平山 文俊、田中 照和、山中 國暉、  
小池 正博、田代佐夫子、相川 康博、  
井手 清、森重 徹洋、森 つよ子、  
今村 明久、橋間 康明、橋間真理子、  
三島みずほ、松本美智子、高橋浩二郎、  
未安 正典、未安 智子、坂田富美子、  
小嶺 裕子、福井紀久子、大淵 倫子、  
坂元まゆみ、佐々木 均、佐々木喜美子、  
藤井 実、原村 直子、長尾 光益、  
都留 君佳、大田寿美子、吉岡 優子、



平成22年11月6日 於 アークホテル博多ロイヤル

中嶋 幹郎, 林田まゆみ, 隅中 芳美,  
三浦 修己, 三浦 徳子, 木山 容子,  
木山 雄一, 相葉 啓子, 磯部有紀子,  
菊本めぐみ, 鷲尾 兼寿, 中村 忠博,

林 幸恵, 吉森 由香, 井口 浩子,  
内海 美保, 本行 千里, 高山 陽子,  
芝口 浩智, 中村 桂子, 吉松 秀明

## 薬化大会兼加藤教授昇進祝い開催しました

高良 真也 (昭57)

去る10月22日金曜日、長崎市役所そばの「割烹 大判」にて久しぶりの薬化大会を開催しました。ここまでちゃんと読まれた方は「金曜日？」と首を傾げられるでしょう。「一般の薬剤師は土曜日仕事なのに金曜の夜に飲み会なんて」と。これにはちゃんと訳があります。翌日の土曜日に昭和62年卒業生が長崎での同窓会を計画しているとの情報を聞きつけた薬化卒業生の井手さん(平2)の発案なのです。実は薬化学出身の加藤恵介君(昭62)が、紆余曲折を経て今年4月東邦大学薬学部薬化学教室の教授に昇進していたのですが、遠い千葉にいる彼を祝ってやれないまま半年を経過していたのです。そう、今回の薬化大会は、加藤恵介君の昇進祝いに託けての飲み会だったのです。自称加藤君の2番弟子井手さん(1番弟子は松本君(昭63))が、この時を逃がしたら今年度中には実現できないかもしれないとの危機感から、無理やり金曜日開催を決めたのでした。このような事情から遠くの方にはお声を掛けませんでしたことをこの場を借りてお詫びいたします。

会場は市役所に勤める都知木さん(昭56)に無理を言って手配していただきました。当日は携帯ナビに頼るも迷子になりかける者もありましたが、上は松田先生(昭37),

NMRの稲田さんから下は平成7年卒の貝田君(写真は彼の提供です)まで、県外からの参加、薬化以外の有志も含め20名が大判に集まりました。「変わらないね」「その頭はどうしたんだ」「最初わからなかったぞ」といった、定番の言葉を交わしながら店内へ。店のメニューは割烹というより居酒屋で、薬化の教室の飲み会にふさわしいものでした。遅れる主賓を気にせず早々に乾杯をし、昔話、近況報告に花が咲きました。もちろんお酒も進みます。主賓到着後の自己紹介を兼ねたスピーチでは、再編が進む製薬業界、ノーベル賞と加藤君の仕事、社会人になってからの勉強、転職、配置換え、ぷー太郎の現況、そしてお祝いの言葉などが語られました。もちろん学生の頃の話(飲んで騒ぎ過ぎ出入り禁止になったあの店、合宿研修-通称ヤマ-でのエピソード、不思議な先輩・困った後輩など)や乳飲み子から大学生まで様々な子育ての話など話題は尽きず楽しいひと時を過ごしました。今回の参加者で現在有機合成を仕事にしているのは加藤君と林田君(昭62)の二人だけでした。この学年が(小林)五郎先生が倒れる前の最後の講義を受けた学年です。あれから四半世紀近く経って薬化学の教授が誕生したことを、改めて非常にうれしく感じた夜でした。



## 芳本 忠教授退職記念講演会・祝賀会

伊藤 潔 (昭59)

平成22年3月20日(土)芳本 忠教授の定年退職を記念し講演会および祝賀会が開催されました。

芳本教授は、昭和48年4月に薬学部に着任以来37年間の長い間、教育研究をはじめ大学運営等、多方面にわたりご活躍されました。

当日は朝から曇り空で、最終講演会の開始前には大雨の天気となってしまいましたが、それを吹き飛ばすように大勢の方々にご参加いただき、満員の多目的ホールでの最終講演会となりました。講演会中には雷の音も聞こえてきましたが、最終講演を祝福する歓声にも聞こえま

した。

引き続きホテルニュー長崎で行った祝賀会にも、悪天候にもかかわらず160名を超える皆様に参加していただき大盛会のうちに会を終了しました。芳本先生、それから奥様の常代様、長い間本当にありがとうございました。おつかれさまでした。

また、盛大な会を持つことができたのは、同門会の皆様のご協力があったることと世話役一同、心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。



満員となった最終講演会会場の多目的ホール



芳本教授から記念に贈られた2本の桜



祝賀会のご挨拶で記念品の焼酎の解説をされるご夫婦



平成22年3月20日 於 ホテルニュー長崎

## 昭和62年3月卒業生の学年同窓会を開催しました

森川 隆 (昭62)

平成22年10月23日(土)長崎において昭和62年3月卒業生の同窓会が開かれたので、その会の経過と様子について報告したいと思います。

この会は、私の中では、1本の電話から始まった。5月某日(実は覚えていない)今回の主幹事である松岡芳樹

氏からの電話が、私のところにあった。彼の話としては、実は同窓会をしたいのだが、長崎にいる小川氏と私に日程等の相談をしたいということであった。そこで私たち3人は5月22日、長崎駅前の居酒屋で同窓会の相談をすることになった。松岡氏によると実は佐世保総合病院で

働いている荻野氏（旧姓山崎）が1学年下の平川某氏を使い、同窓会をするように迫っているという話で始まり、3人で相談した結果、やはり1度は長崎で開催しようということになった。個人的には長崎市内近郊にいる同窓生を1回呼び出して、ある程度人間を固めてはどうかと意見したが、それでは、同窓会が2回になるということで却下され、じゃあ今からだと秋ごろであり、3連休は皆忙しいから普通の土日で、10月中旬以降にどうかという話で終わっていた。この日はそれで散会したのだが、この日、松岡氏は飲みすぎたのか大村に帰る途中JR車中で寝入ってしまい、佐世保までそのまま乗り過ごし、佐世保の東横インに泊まって帰るといふかわいそうな裏話が付いています。（松岡さんご苦労様です。）その後、何の音沙汰もなくどうなったのかなと思っていたら、7月14日に松岡氏から、開催日は10月23日で、8月に出欠のハガキを出すということで携帯メールに連絡があった。いきなりのメールでびっくりしたが、彼が本気であることを示していた。実はハガキを出すところまでは、以前小川氏と私で同窓会を計画したことがあり、実際、平成2年か3年のころ、往復ハガキ80枚を同級生に出したが、10数枚しか返ってこず、またその中でも参加者が10人程度であったので、そのときは中止し、参加予定者に電話で中止を説明するというところまでやった。（このとき10人でも開催していればよかったのかもしれないが...）このことが小川氏と私のトラウマになっていることは間違いないと思っている。過去の話は置いて、このあと8月末日までに30人程度が集まっていることを確認し、もう中止はあり得ないことを確信し、計画は粛々と進んで行った。この間松岡氏は、参加者その他ハガキが来ていないという同級生からのメールの対応、および直前の参加者、不参加者の出欠確認を行っており、少し話を聞いただけですが、かなりの苦労をされたこととお察し申し上げます。

さて、10月23日の同窓会は、それはもう卒業して24年、

卒業して最初の2年間は2学年合同の同窓会をしていたとしても、22年ぶりの同窓会であり、最初からかなり話が弾んでいました。同窓会の名簿を見て、違うテーブルの人をみて、あの人はこの名前だよと確認しあい、また、お互いの近況を話したりして盛り上がりました。約20年ぶりに会ったにとしては、出席者は少し太った人（男）がいるのは仕方ないにしても、意外にみなさん昔と変わらず、松岡氏があいさつの中で、うれしいような、半分面白みに欠けると言っていたのですが、全員そのように感じていたのではなかったでしょうか。その後、近況報告を1人ひとりしましたが、みな、子育てや仕事に頑張っており、健康に過ごしている様子うかがえました。また、一次会では、同級生の猶塚氏がコレクションし、大学院卒業時に私のところに託した2学年合同の同窓会写真を持ちこみました。（林田氏にこういう写真があるよと言ったら、それを持ってこいと卒業アルバムを持ってこいと言われ同窓会当日、私は実家の家捜しをさせられた。）この写真は、意外に好評（？）で、皆懐かしく見ていました。猶塚氏の好意により焼き増しもしてあったので、皆にそれぞれ写っている写真を持ち帰っていただきました。写真を22年間預かっていたものとして胸のつかえが下りたような気がしました。（猶塚さんありがとうございました。来てない方の分もあるのですが、まだ半分程残っています。）

同窓会は、一次会を午後6時から9時まで行い、その後ショットバーに移動して二次会となりましたが、そこも途中席替えもしながら12時まで居座り（パーテンドーさんすみません）、さらにその後、10人は三次会へと突入し、そこでも2時間程度居座って、終わったのは午前2時ごろでした。

最後に、この会で一次会から話題が上がっていたことが、次の同窓会を誰に託すかということでした。私としては、今回は長崎で開催したので、次は佐賀か福岡がいいかなと思っていたので、今回はその2か所のどちらか



でしょうか？この同窓会報をお読みになった、佐賀か福岡にお住まいの昭和62年卒の卒業生の皆さまに申しますが、ぜひ50歳頃での開催をしてみませんか？開催のノウハウについては松岡氏までお尋ねください。それでは今回参加いただいた同級生の皆さま、ぜひまたお会いしましょう。今回参加できなかった皆さまへは、次の参加を是非お待ちしております。同級生で話をするのはとても楽しいですよ。多分脳の活性化にも??

出席者氏名(敬称略)

野田(有馬)美樹,池澤竜平,田中(石津)恵美子,溝田(井

手口)京子,若松(伊藤)富士美,脇黒(井上)みどり,小川尚孝,坂本 繁,折口(都々木)典子,分蔵(寺司)雅知代,山下(野中)由紀子,山添(蓮尾)敦子,林田 久,谷山(堀)綾子,森川 隆,荻野(山崎)清子,山下恵子,石田(石井)颯,野口(内田)聖子,中村(鬼塚)佳子,加藤恵介,坂本裕一郎,三松(中村)聖子,荻野(永田)佳子,山代(西村)美香,本多(濱田)佳子,馬場直佐,崎浜(平安)朝子,本多雅幸,松岡芳樹,秋山(三原)佐予子,以上計31名 学籍番号順

## 昭和60年度入学同窓会

白川奈奈子(平1)

私達は、昭和60年4月、長崎大学薬学部で出会い、共に学び、共に遊び、楽しい4年間を過ごしました。

卒業してからというもの、皆は元気になっているのかな?と思いつつ、先輩方や後輩達が同窓会をするという話を耳にしながら、私達は同窓会しないのかな~と思いつつ、5年過ぎ・10年過ぎ・とうとう20年という月日が経ってしまっていました。

そんな時に、2つ上の先輩方が同窓会をされると聞き、私達もやろう!と一大決心しました。どうなることやらと不安でしたが、なんと長崎以外からの参加者もあり、25名の同窓生が集まりました。

突然の同窓会のお知らせに、残念ながら欠席と返事をくれた方もたくさんいて、皆、同窓会の開催を待っていたのだなということも実感しました。遠方から来てくれ

る方のために、長崎らしいものと思い、新地中華街「京華園」で、中華料理を囲んでの再会としました。

お隣の部屋では2つ上の先輩方の同窓会が行われていました。実は、「偶然、先輩方にも会えるかも!」という思いで、私達の方が、同じ日時を選んで便乗させていただきました。会が終わり移動する際には、私達の部屋に顔を出してくださった方もいらっしゃって、本当に学生の頃みたいでした。

同窓生というのは不思議なものです。会っていない時間など関係なく、あっという間に昔に戻れるのですね。徐々に再会し、「昔の仲間っていいなあ」としみじみ実感いたしました。昔を懐かしく思う年頃になってきたということでしょうか。学生の頃の昔話やら、近況報告やら、話は尽きず、あっという間に時間が経っていました。



平成22年10月23日 於 京華園(新地中華街)

二次会へも22名が参加し、さらに会は盛り上がり、午前0時を迎える頃に2次会がお開きとなりました。

今回の同窓会の反省会もしつつ、次回も開催できるようにしたいねと話は盛り上がりました。是非、次回は2年後に福岡で！と。

今回、思い出になるようにと写真をいっぱい撮ってくれました。その写真の皆の笑顔がとても素敵だったので、写真を撮ってくれた友人と相談して、出席した方と残念ながら出席できなかった方へも写真を送ろうということになり、写真のデータCDを作成して送付しました。出

席者には、友人が写真で動画ムービーを作成したのも送付しました。

友人が作ってくれたムービーに、何だか胸キュンとなりました。何年たっても変わらない笑顔があることが、とても幸せに思います。やっと、私達も同窓会が出来るようになりました。きっと、2年後には福岡で再会していることでしょう。

最後に、学生の頃からいつも叱咤激励していただいた前同窓会事務局の大河内美代子さんのご冥福を心よりお祈りいたします。

## 卒後20周年同窓会

井手 指月（平2）

そういえば“5年毎には同窓会を！”という約束でしたね。前回の集まりから5年後の2010年7月18日、61年度入学組の卒後20周年同窓会が開かれました。毎回お世話して下さる我らが学年幹事稔君、ありがとうございます。本来ならその稔君からご報告をして頂くところですが、今回は諸般の事情により、口は達者でも手はおぼつかない私のつたない報告でご勘弁ください。

会場の京華園に集った不惑の40代、28名。二世の参加は下田（浦川）幸恵さんのお嬢さんと佐々木（三浦）裕子家の双子ちゃん、江頭（稷山）道子さんちのお嬢さんの4名でした。受験やおけいごと等、やはり子供の話題はつきないようで、あちこちのママさんグループで話しに花が咲いていたようです。

子供と言えば、前回は、独身貴族でちびっ子達の格好の遊び相手だった秋吉君、今回はイケメンのご息同伴で参加。ところがわが子の子守は奥様にまかせっぱなしで、ママ軍団からひそかなブーイングが……。丈夫な“児童”は得意でも、取り扱い要注意の“乳児”は苦手なん

でしょうか？「はよ大きにならんかな～」と他人事のように言ってましたが、ぜひご自身も成長を。

そうそう毎回プロ仕様のカメラで、我々のエイジングプロセスを記録してくださる富田君のところにも、待望のご長男が誕生していました。息子を持って気持ちも新たに、長崎県の平和と安全のためにがんばってくれるそうで、心強い限りです。20年前には、この二人が40歳過ぎてオムツの交換をしているとは思ってもいませんでした。

鍵本君からは満を持しての開業報告。なんと浜の町アーケードのど真ん中だそうで参加者一同から大拍手。薬局名（ひとみ薬局）にあらぬ疑いをかけられようで、「眼科の処方箋を扱うので……」と弁明に一生懸命でした。

山内君は、各テーブルご挨拶に回ってきてくれたのですが、私のテーブルに来られた時はちょうどデザートタイム。ご本人の話もそこそこに他のテーブルのデザートを越境して食しに行き、行った先で話し込んでしまいそ



平成22年7月18日 於 京華園

のまま戻れず……。最後までお話聞けずに申し訳ない！  
同卓の皆様から「うまく逃げたわね～～」とあらぬ？誤  
解を受けたのですが、本当に話し込んでしまって戻れな  
かったんです。決して逃げたわけではないことをこの場  
を借りて釈明させていただきます。お許し下さい。

二次会では、カラオケよりもおしゃべりに盛り上がっ  
ていたところ、誰からともなく“夜間に冷たい飲物は良  
くない”との話題が持ち上がりました。翌朝むくむとか、

内臓を冷やすとか、皆思い当たるフシがあるようで、気  
がつくとコーヒーだとか紅茶だとか、あったかいウーロ  
ン茶だとかの注文が相次いでいるではありませんか！冒  
頭に“不惑”の40代と書きましたが、まだまだ周りの雰  
囲気に惑わされる我々なのでした。

今回は40代終盤での開催です。迷いなく、心身ともに  
“大人”になっての再会が楽しみです。ではまた！

## アメリカ・ルイジアナ州の空の下から ～アメリカの調剤薬局に思う事～

池田 理恵（平13）

去る8月中旬から10月中旬までの2か月間に渡り「海  
外派遣による自立した若手生命医療科学研究者育成支援  
プロジェクト」にて、アメリカ・ルイジアナ州、ルイジ  
アナ大学モンロー校へ海外派遣の機会を得ました。研究  
生活の合間に、調剤薬局について見聞した中から、アメ  
リカにおける調剤薬局について、紹介したいと思います。

皆様よくご存知の通り、薬学教育に関しては、アメ  
リカでは pre-pharmacy を経たのち、専門大学院 Pharm. D  
課程を修了し、薬剤師への道が開かれることとなります。  
アメリカにおける薬剤師数は、アメリカ全土に190,000  
人、調剤薬局に112,000人（チェーン店66,000人、個人  
経営46,000人）（米国薬剤師会、URL: <http://www.pharmacist.com/>）であり、  
実数は日本の薬剤師数とほぼ同程度  
であり、人口あたりの薬剤師数は日本の方がはるかに多  
いと言えます。

当地で見かける調剤薬局の業態は、(いわゆる)保険  
薬局、調剤併設型ドラッグストア、調剤併設型スーパー  
マーケットに大別できます。しかしながら、前述の薬剤  
師数の割には、個人経営の薬局はほとんど見かけません。  
当地では、ようやく一軒だけ見つける事が出来たほどで  
あり、保険薬局の数はチェーン店の1/20とのことでし  
た。当地で見かけた薬局は、調剤併設型ドラッグストア  
と調剤併設型スーパーマーケットがほぼ同数という状況  
でした。

調剤併設型ドラッグストアとしては、アメリカの3大  
ドラッグストアと言われる Walgreen, CVS 及び Rite Aid  
が至る所にあり、いずれも、24時間営業、ドライブスルー  
を持ち、写真店を併設している業態でした。当地のスーパー  
マーケットは、食料品から衣料品など日常生活で必要  
なもの全てを取り扱っており、Walmart, Target や FRED  
など、当地で見かけた全てのスーパーマーケットが調剤  
併設型でした。

初秋の時候もあり、9月中旬以降、店頭ではインフル  
エンザ予防接種を大々的に宣伝しており、毎日、認定を  
受けた薬剤師が予防接種を実施していました。また、自  
己血糖測定器や血圧測定器などの自己管理のための医療

機器類が目立つ所に陳列されていました。皆保険制度で  
はない当地の現状から、自己管理の意識が強い事が推測  
できました。OTC 販売では、アセトアミノフェンなど  
の解熱鎮痛薬や抗アレルギー薬である塩酸セチリジンが  
目立つ所に陳列してありました。ドラッグストアやスー  
パーマーケット型薬局にて拝見していた限りは、薬剤師  
は仕事の大半をリフィル調剤の電話対応に追われている  
ようでした。窓口には受け渡し用の窓口の他にも、“con-  
sultation”と書かれた相談窓口があり、そちらでは細やか  
な対応をしているとは思いますが、残念ながら、その窓  
口を使っているところには遭遇する事はできませんでした。

また、アメリカでは医薬品のテレビCMが解禁され  
ており、毎夜、3種以上のCMを見かけました。最も  
驚いたのは、FDAによる医薬品危険性情報のCMが放  
送されていたことです。医薬品服用に起因する危険性を  
明示し、対策センターへの連絡を呼びかける内容であり、  
一般への情報公開が徹底していました。

前述の日本と米国における薬剤師数の違いには、テク  
ニシャンと呼ばれる技師の存在も大きいですが、ドラッ  
グストアやスーパーマーケット型が多いという、こうし  
た業態の違いが大きく影響をしているものと感じました。  
こうした状況を鑑みるに、日本における薬剤師は、いわ  
ゆる日本のものづくりに代表されるような、個々の患者  
に応じた細かな対応ができることが、大きな特色であろ  
うと感じました。個々の患者背景に応じた服薬指導の徹  
底及び調剤の工夫は日本人としても得意とするところ  
であり、誇れる点であり、さらに、薬剤選択への助言など  
を始めとした薬物療法への貢献が期待される場所であ  
らうでしょう。しかし、ドクターレターが発表された時の対応  
など、当地のような徹底した情報公開のあり方は、これ  
からの課題であろうと強く感じた次第です。

最後に、本プロジェクトにて多くの研究者が世界各地  
で研鑽を積む貴重な機会を得ており、各人にとって非常  
に大きな財産になると確信します。このような貴重な経  
験をする機会を与えていただいたプロジェクトリーダー

の甲斐教授を始めとする皆様及び快く送り出していただ

いた研究室の皆様衷心より御礼を申し上げます。



派遣先のルイジアナ大学モンロー校薬学部  
(University of Louisiana at Monroe (ULM), College of Pharmacy)



## 西田先生教授就任祝賀会

宮元 敬天 (平20)

薬剤学研究室設立から50年という記念すべき年に、西田孝洋先生が薬剤学研究室教授に就任され、去る平成22年4月17日、ホテルニュー長崎において西田孝洋先生の教授就任祝賀会を開催いたしました。祝賀会は西田先生が長崎大学へ着任されて以降の卒業生・修了生を中心に、総勢50名が参加した盛大な会となりました。

第一部では西田先生により、『長崎・薬剤学ブランドの確立へ向けて』という題目で記念講演が行われ、麓先生から薬剤学研究室の近況報告と今後の展望についてお話がありました。

引き続き行われた第二部は中嶋幹郎教授(昭57)によ

る開会のご挨拶をいただいたのち、参天製薬株式会社で勤務されている山村賢三様(院平7)の乾杯の発声で幕が開きました。第二部では、卒業生の方々よりご祝辞をいただきました。また、思い出の写真をスライドショーで映写しており、皆様楽しそうにご歓談されていました。しかし、楽しい時間はあっという間に過ぎ、最後にお祝いの花束を西田先生と奥様へ贈呈し、西田先生より閉会の御挨拶をいただいた後、集合写真を撮影して、盛会のうちに終了いたしました。

末筆となりますが、お忙しい中ご参集いただきました先生方、卒業生の方々に深く感謝いたします。



平成22年4月17日 於 ホテルニュー長崎

## ぐびろが丘下の原爆慰霊碑周辺の清掃

黒川 裕美（平22）

平成22年8月1日の日曜日、恒例のぐびろが丘下の薬専防空壕跡地にある慰霊碑周辺の清掃が行われました。とても暑い日でしたが、薬学部OB・大学院生・学部生の総勢29名が参加しました。また今年は被爆65年ということで、新聞社も取材に来ていました。作業は汗をかきながらのきついものでしたが、先輩方の楽しいお話を聞きながら作業をすることができたので、1時間程度の清掃をとて早く終えたように感じました。

清掃の後、順番に慰霊碑にお線香をあげ、田崎先生(昭22)のお話を聞きました。私は広島で小さい頃からたくさんの被爆体験談を聞いてきましたが、長崎での体験談を聞く機会は少なく、この清掃に始めて参加して、自分たちできれいにした慰霊碑周辺で起きたできごとなどを聞くと、今のこの平和な長崎からは想像できないようなことばかりで、やはり戦争は繰り返してはいけないと強く再認識させられました。現在の日本には、原爆が投下された日にちを知らない人がたくさんいるという話を聞いたことがあります。このように生の体験談を聞くことができる私達はとても恵まれていると思いました。

その後は場所を近く中華料理店に移し、薬学部校歌を斉唱後、おいしい料理を食べながら、あまり接することがない年代の先輩方のお話を伺いました。来年からもできる限り参加していきたいと思います。

最後になりましたが、田崎先生、本当にありがとうございました。そして、これからも貴重なお話をたくさん聞かせていただきたいと思います。



## 九薬連長崎で開催される

和田 怜（学部3年）

平成22年5月3日～5日にかけて、第53回九州薬学連盟体育大会が長崎大学で開催されました。4年ぶりの長大開催ということで、各部3月から準備を始め、例年よ

り一層印象深い九薬連になったと思います。残念ながらバレー部は出場できませんでしたが、各部それぞれが奮闘し、楽しむことができました。

結果は以下の通りです。

**男子バスケットボール部** (準優勝)

- ・予選リーグ            長大 84 - 87 福大  
                              長大 77 - 73 九保大
- ・準決勝                長大 72 - 69 第一薬大
- ・決勝                  長大 47 - 65 熊大

**女子バスケットボール部**

- ・総当たりリーグ      長大 38 - 56 長崎国際大  
                              長大 55 - 69 福大  
                              長大 24 - 71 熊大

**野球部** (4位)

- ・1回戦                 長大 7 - 14 熊大
- ・敗者復活戦         長大 13 - 3 崇城大
- ・3位決定戦           長大 5 - 7 長崎国際大

**バドミントン部** (4位)

- 長大 2 - 3 熊大
- 長大 0 - 5 福大
- 長大 2 - 3 崇城大

**軟式テニス部**

- 長大 1 - 4 第一薬大

**硬式テニス部**

男子 (6位)

- ・予選                    長大 3 - 4 福大  
                              長大 2 - 5 第一薬大
- ・順位決定戦           長大 4 - 2 熊大B

女子 (4位)

- ・予選                    長大 熊大        勝ち  
                              長大 長崎国際大 負け
- ・準決勝                長大 九保大       負け
- ・3位決定戦            長大 崇城大       負け



**サッカー部** (5位)

- ・予選                    長大 九保大 負け  
                              長大 九大       負け  
                              長大 熊大       負け
- ・下位トーナメント    長大 九保大 勝ち  
                              長大 崇城大 勝ち

## 旧小野島校舎跡地記念碑周辺の清掃

和田 光弘 (平4年)

今年も11月21日(日)に旧小野島校舎跡地記念碑周辺の清掃を行いました。当日は晴天に恵まれ、暖かい日差しの中、清掃を行うことができました。柏葉会館に集合した

麻生(昭24)、木下(昭35)、伊豫屋(昭41)、和田(平4)、岸川(平10)、福留(平10)、武次(事務局)の7名が車二台に分乗し、目的地に向け出発しました。また



現地には松本（昭24）、峰（昭26）、立石（昭26）、平山（昭41）、椛島（平4）の他、山中國暉（昭43）、山中みちよ（昭43）ご夫妻にも初めて参加いただき、例年以上に多数の総勢14名にて清掃を行いました。また今年は記念碑周辺の駐車場などがきれいに整備されていたこともあり、記念碑周辺も例年に無く片付いておりました。小1時間ほどで清掃を終了し、最後に参加者全員で記念撮影をし、作業を終了いたしました。

その後、諫早市内の鰻屋で昼食となりました。美味しい鰻に舌鼓を打ちながら、小野島会の先輩方の思い出話で大いに盛り上がり、時間を忘れて話しに聞き入っておりました。「旧小野島校舎跡地記念碑周辺の清掃」と「ぐ



今回参加いただいた小野島会のメンバーは、麻生忠介（昭24）、松本康裕（昭24、旧名：玉丸）、峰 唯信（昭26）、立石正文（昭26）の4名の先輩方です。この他の参加者は、木下敏夫監査（昭35）、伊豫屋偉夫会長（昭

びろが丘下の原爆慰霊碑周辺の清掃」の2つの同窓会事業は、普段なかなか機会のない先輩方のお話を耳にできる貴重な場として個人的には、楽しみにしております。また披露される貴重な話の数々に、同窓会報の編集幹事としましては、文章にして何とか会員の皆にお伝えできないかと強く思いました。別の機会を設けて是非実現したいと思っております。

昼食後は近くの諫早高等学校に下村 脩先生の銅像が建てられたと報道にありましたので、有志で見学に行きました。立派な像に感嘆の声が上がり、皆で記念撮影をしまりました。



41）、平山俊文県央支部長（昭41）、山中國暉長崎支部ぐびろ协会会长（昭43）、山中みちよ（昭43）、和田光弘（平4）、椛島 力（平4）、岸川直哉（平10）、福留 誠（平10）、武次郁子（事務局）でした。

# クラブOB会だより

## 平成22年度野球部 OB 会と親睦試合観戦記

11月27日土曜日に恒例の長葉野球部 OB 会が江山楼浦上店にて開催された。参加者は66名と昨年より少し増え、内訳は41名のOBと25名の現役部員であった。例年通り、昭和31年卒の今泉先輩のご挨拶に続いて、乾杯の音頭は四国より駆けつけていただいた昭和51年卒の青野先輩にお願いして、開会となった。開会直後こそ、卒年の近いOB同士あるいは現役部員同士のテーブルで酒が酌み交わされていたが、時間の経過とともに各テーブルはOBと現役部員が入り乱れ、会場は大きな笑い声に包まれた。

41名のOBのうち、昭和卒（18名）と平成卒（23名）の割合は例年通りであるが、平成10年以降の比較的若いOBの参加者が多く、若い力の台頭も強く感じられた。

### 大山 要（平12）

恒例の今泉先輩からの準硬式ボールの贈呈を終えると、伊藤顧問から翌日のOB戦のOB側先発メンバーの発表が行われ、翌日の試合に向けて気合を入れた。

ピッチャー：吉田泰史（昭55）、キャッチャー：目良国寛（平10）、ファースト：坂田真人（平15）、セカンド：大山 要（平12）、サード：吉本雄祐（平6）、ショート：山本 豊（平13）、レフト：森本 仁（平5）、センター：中島敏樹（昭57）、ライト：秋吉隆治（平3）。

最後は、大阪より駆けつけてくれた目良国寛氏に万歳三唱をお願いし、野球部への熱い思いと笑いを交えつつ会を締めくくっていただいた。



### 親睦試合（OB 戦）観戦記

前夜の突然の降雨で開催が危ぶまれたが、早朝からの現役部員のグラウンド整備の甲斐もあって午前10時にプレイボールとなった。守備位置がそのまま打順でOBが先攻のパターンはここ数年全く同じで、昨年の試合の再現かのように、先頭打者の吉田（昭55）がセンター前のクリーンヒットで出塁した。しかし、続く目良（平10）が5 4 3のダブルプレーに倒れ、3番坂田もサードゴロとなり、3人で初回の攻撃を終えた。裏の現役チームの攻撃は、ピッチャー吉田の好投と初回でまだ元気のいいOB守備陣の好守もあり、無得点に抑えた。2回表は5番吉本（平6）が出塁し、6番卜部（平17）、7番平山（平18）が連打で続き、8番田中（平21）がセンター

へあわやホームランというような犠牲フライを放ち、OBチームが1点を先制した。しかし、さすがは現役チーム。その裏に9番ピッチャーの鎌水がレフトオーバーの3ランホームランを放ち、あっさり3点を奪い逆転した。その後は最終回まで現役がリードを保ちつつ、点を加えていく一方的な展開になってしまったが、OBが併殺・好走塁？を決める等の好プレーが随所にみられた。OBの方々は来年また、体を鍛え直して集まってください。

	1	2	3	4	5	6	7	8	計
OB	0	1	0	2	0	0	2	0	5
現役	0	3	1	5	1	0	6	×	16



試合後は恒例の皿うどんパーティー。いつも通り、終わったばかりの試合の話で盛り上がりながら、今年のOB会を終えた。OBのみなさん、また来年お会いしましょう。

追記：野球部HPに詳しいOB戦レポートがありますので、本記事と併せて是非ご覧ください。

<http://www.ph.nagasaki-u.ac.jp/dousou/club/baseball/home-base.shtml>

## 第26回薬学硬式庭球部 OB 会

小松 広明（学部5年）

11月6日、7日の二日間、今年で第26回目を迎える薬学硬式庭球部OB会を開催いたしました。

6日は松山の市営庭球場でOB対現役生による対抗戦を行いました。先週はかなり冷え込んだため、寒さも心配されましたが、この日は天気にも恵まれ、暖かい絶好のテニス日和でした。

石黒先生、山本先輩（院昭55）、松原先輩（昭58）、西田先生を始めとする先輩方がお忙しい中都合をつけて頂き、多くの試合をすることができました。今年は、山本先輩の中学校の同級生であり、テニス部発足時にテニスのご指導を頂いた百武さんの参加が特筆すべきことではないでしょうか。試合結果は、例年通りOB、OGの圧勝でした。体力では負けていないはずの現役生ですが、

先輩方の技術と経験の前では、やはりまだまだで、さらに練習が必要ということだと思います。各試合後には、対戦したOB、OGの方からご助言を頂き、現役生にとっては大変有意義な経験となりました。

対抗戦後は、懇親会を宝来軒別館で行いました。参加者はOB、OG、現役生合わせて56名にのぼり大盛会となりました。今年は乾杯の前に、山本先輩の還暦祝いと西田先生の教授就任祝いということで、記念の花束贈呈が行われました。その後は、現役生の自己紹介、OBの方々のお話と進み、現役生にとってはテニスについて、また普段は聞けないような仕事についてのお話を聞いた貴重な時間であったと思います。

長崎大学薬学硬式庭球部OB会も26回を迎え、これが

らもさらに発展していくことと思われます。今年は残念ながら出席できなかった先輩方もご都合がつきましたら、

来年のOB会に是非ご参加下さい。現役一同、心よりお待ちしております。



## 薬学軟式庭球部 OB 会・OB 戦

溝口 達也 (学部3年)

12月4日、5日に軟式庭球部OB会・OB戦を開催いたしました。

初日の4日は市内浜町の居酒屋 糸びす屋でOB会を行いました。ご多忙のため都合がつかない先輩方がほとんどだったのですが、大学院生を中心にOBの方数名の出席をいただき、とても楽しい会となりました。大学院生の方とは普段会う機会もありますが、OB会という場で、改めて現役生は親睦を深めることができたのではないかと思います。居酒屋工房 居ざけ屋で行った二次会には遠方よりOBの方の出席をいただき、こちらもとても楽しく、有意義な会になったと思います。

翌日の5日は、長崎大学のテニスコートでOB戦を行いました。今年は残念ながら多くの先輩方の都合がつかせませんが、1名のOBの方の出席をいただきました。試合は変則的になりましたが、ペアを変えながら数試合行い個人優勝を決める形となりました。今年は天候

にも恵まれ、またささやかながら優勝賞品も用意させていただき、非常に白熱した試合ができました。結果は、前々年度部長が昨年に続いての2連覇ということになりました。現部長である私は2戦2敗と、情けない結果となってしまいました。来年こそは3連覇阻止に向けて、より精進していこうと思います。

長崎大学薬学軟式庭球部員も年々増加の一途をたどり、OB総勢300名を超えることとなりました。毎年頂いているOBの方の近況報告では、さまざまな形での先輩方の御活躍を拝見させていただき、少しでも近づけるように、現役生一同より精進せねばと気持ちを新たにしております。今回出席して下さった先輩方、残念ながら出席できなかった先輩方、ご多忙だとは思いますが、もし来年都合がつきましたら、是非ご参加下さい。現役生一同、心よりお待ちしております。



# 庶務報告

岸川 直哉 (平10)

## ○定例理事会

平成22年4月3日(土)13時00分より薬学部第二講義室で開催されました。伊豫屋偉夫同窓会長(昭41)の挨拶の後、まず平成21年度事業報告および決算報告、平成22年度事業計画案および予算案、役員改選案が討議されました。

さらに、佐賀支部志岐寿子幹事(平4)よりホテルニューオオタニ佐賀(佐賀)で開催される平成22年度長薬同窓会定期総会について説明がありました。

## ○平成22年度長薬同窓会定期総会

平成22年6月26日(土)17時30分より、佐賀市のホテルニューオオタニ佐賀にて開催されました。会に先立ち16時30分より、国立国際医療研究センター肝炎・免疫研究センター研究センター長の溝上雅史先生に「なぜ日本に肝がんが多いのか? その対策と治療は? 」と題し、ご講演いただきました。総会では、開会挨拶の後、まず物故者への黙祷を行い、続いて伊豫屋偉夫会長(昭41)より挨拶がありました。その後、佛坂 浩氏(昭61)を議長に選出して議事に入り、平成21年度の事業報告ならびに決算報告、それに対する監査報告がなされ、承認を得ました。続いて、役員改選に関して討議が行われ原案通り承認を得ました。引き続き、新役員より平成22年度事業計画案ならびに予算案が示され、こちらも原案どおり承認されました。また、来年度の総会開催地(長崎)について長崎支部ぐびろ会山中國暉会長(昭43)より説明がありました。総会終了後、同じ会場で開かれた懇親会では、佐賀支部大坪美穂氏(昭47)による祝舞「松の翁」等の余興もあり、大変和やかに盛大な懇親会となりました。

## ○支部長交代

近畿支部長白石哲也氏(昭32)から梶野 繁氏(昭42)へ交代(10/16)、長崎県北支部長今上 亨氏(昭25)から今泉貴世志氏(昭31)へ交代(11/20)の届け出がありました。

## ○支部名称変更

佐賀支部が佐賀支部若楠会と名称変更(6/26)の届け出がありました。

## ○長薬同窓会関連施設の維持・管理

平成22年8月1日(日)に、ぐびろが丘原爆慰霊碑周辺の清掃を同窓会本部役員・同窓生・事務局および現役院生・学生で行いました。また、11月21日(日)に小野島校舎跡地記念碑周辺の清掃を同窓会本部役員・同窓生・事務局で行いました。

## ○寄贈

故岩永秀明氏(昭29)より寄付金1万円をいただきました。故大河内美代子氏(前同窓会事務局)より寄付金20万円をいただき、同窓会旗を新調しました。白石哲也氏(昭32)より、「seventh-edition The MERCK INDEX OF CHEMICALS AND DRUGS」、「新版 化学工学便覧」、「新版 生産管理便覧」、「改訂四版 分析化学便覧」、「Chemistry of the Amino Acids volume 1」、「Chemistry of the Amino Acids volume 2」、「Chemistry of the Amino Acids volume 3」、「有機化学の理論 1」、「薬剤学 第4版」、「有機電子論 II」、「有機ハンプ分析」、「別冊 蛋白質核酸酵素メタボリックマップ」、「詳解 物理化学演習」、「化学結晶学」、「ものがたり 科学技術史」、「核酸発酵」、「PHYSIOLOGY & BEHAVIOR Proceedings of second International symposium on Umami」、「叢桂亭医事小言 巻之1~6」および「叢桂亭蔵方」の計18冊の寄贈がありました。これらの寄贈図書は同窓会室に保管しております。

## 物 故 者 氏 名

前会報(49号)に発表のあとなくなった方、及び死亡が判明した方(敬称略)

氏 名	卒年次	死亡年月日	氏 名	卒年次	死亡年月日	氏 名	卒年次	死亡年月日
鈴 田 国 広	昭 7	平15 .12 .1	松 尾 正 行	昭20	平22 .5 .18	森 山 茂 樹	院昭47	平22 .2 .23
中 村 覺	" 13	" 21 .3 .5	下 釜 勝	" 22	" 22 .3 .11	吉見(壺井)針光	" 55	" 22 .1 .13
井 上 忠 則	" 14	" 21 .7 .-	大 谷 義 郎	" 23	" 21 .7 .18	岡 本 雅 春	昭 57	" 22 .1 .3
税 所 典 太	" 15	" 21 .-	竹 田 昭	"	" 22 .4 .15	朴 悦 子	平 3	" 21 .5 .8
神 力 喜 一	" 16 .3	" 21 .11 .25	高 橋 照 夫	" 24	" 22 .1 .11	志岐内 博	" 4	" 22 .8 .18
山 根 秀 雄	"	" 20 .7 .5	成 澤 哲 夫	" 26	" 22 .9 .1	石 田 幸 弘	" 13	" 22 .6 .23
本多(今泉)三代彦	" 16 .12	" 22 .3 .1	福田(渡辺)逸郎	" 28	" 21 .11 .29	中 山 雅 之	学 2	" 22 .10 .4
守 康 則	"	" 21 .7 .23	川 田 裕 溢	" 29	" 21 .6 .-			
高田(田中)亮哉	" 19	" 21 .10 .2	松 尾 明 美	" 31	" 22 .4 .27			
小 串 敏 久	" 20	" 22 .4 .12	明 石 浩 知	" 40	" 20 .11 .20			
								計 27名

# 学 内 記 事

## (海外渡航)

種別	職名	氏名	渡航先国	期間	渡航目的
出張	教授	植田 弘師	カナダ	H22.1.11 H22.1.16	モルヒネ鎮痛耐性の制御機構についての研究打ち合わせ
研修	教授	植田 弘師	イギリス	H22.4.14 H22.4.23	痛み研究についての研究打ち合わせ
出張	教授	中島憲一郎	ヨルダン	H22.4.20 H22.4.26	第13回ヨルダン薬学会コンファランス参加
出張	助教	福留 誠	オーストリア	H22.5.8 H22.5.13	第15回国際シクロデキストリンシンポジウム参加
出張	助教	高橋 圭介	フランス	H22.5.18 H22.7.17	生物活性天然物の全合成研究
出張	教授	河野 通明	フランス	H22.8.28 H22.9.9	ERK-MAP キナーゼ経路の制御異常と諸疾患に関する共同研究
出張	教授	黒田 直敬	チェコ共和国	H22.7.11 H22.7.18	第14回ルミネセンス分光分析に関する国際会議参加
出張	教授	中島憲一郎	チェコ共和国	H22.7.12 H22.7.19	第14回ルミネセンス分光分析に関する国際会議参加
出張	助教	池田 理恵	チェコ共和国	H22.7.12 H22.7.19	第14回ルミネセンス分光分析に関する国際会議参加
出張	教授	植田 弘師	フランス スウェーデン	H22.7.7 H22.7.16	研究情報交換 国際麻薬研究協議会参加
出張	教授	中山 守雄	ハワイ	H22.7.9 H22.7.13	2010年国際アルツハイマー病会議 (ICAD2010) 参加
出張	教授	植田 弘師	カナダ	H22.8.28 H22.9.3	IASP 第13回国際疼痛学会にて研究発表, 情報交換
出張	教授	田中 正一	デンマーク	H22.9.3 H22.9.11	第31回ヨーロッパペプチド討論会参加
出張	准教授	石原 淳	フランス スイス	H22.9.2 H22.10.7	オート・アルザス大学ミュールーズ国立高等科学院 共同研究・学術交流, レジオシンポジウム30
出張	准教授	北里 海雄	中国	H22.8.17 H22.8.24	青海民族大学化学と生命科学学院, 抗ウイルスチベット薬に関する研究交流
出張	助教	松尾 洋介	フランス ドイツ	H22.8.22 H22.9.4	第25回国際ポリフェノール会議参加 第58回薬用植物および天然物化学に関する国際会議参加
出張	准教授	田中 隆	ドイツ	H22.8.27 H22.9.5	第58回国際薬用植物天然物研究学会・第7回タンニン会議参加

## (異 動)

異動年月日	異 動 容	職	氏 名	所属研究室	備 考
H22.1.1	昇 任	教 授	西 田 孝 洋	薬 剤 学	薬剤学研究室准教授から
H22.2.26	採 用	助 教	村 松 涉	医薬品合成化学	有期雇用職員(H22.2.26~H26.3.31) 芥ニユア・トラック
H22.3.31	辞 職	教 授	芳 本 忠	薬 品 生 物 工 学	定年退職 摂南大学理工学部教授へ
H22.3.31	辞 職	准教授	袁 徳 其	薬 化 学	神戸学院大学薬学部教授へ
H22.4.1	昇 任	准教授	麓 伸太郎	薬 剤 学	薬剤学研究室助教から
H22.5.31	辞 職	准教授	水 野 恭 伸	病 院 薬 学	有期雇用職員(H21.11.1~H22.5.31)
H22.6.1	採 用	准教授	手 嶋 無 限	病 院 薬 学	有期雇用職員(H22.6.1~H24.3.31)
H22.7.1	採 用	准教授	大 庭 誠	薬 化 学	東京大学医学部附属病院特任助教から
H22.8.16	採 用	助 教	松 永 隼 人	分 子 薬 理 学	崇城大学生命生物学部助教から
H22.12.1	採 用	教 授	岩 田 修 永	薬 品 生 物 工 学	理化学研究所から

## (学位授与)

学位記番号	学位の種類	氏 名	学位授与年月日	学位記番号	学位の種類	氏 名	学位授与年月日
甲第320号	博士(薬学)	ヤマシタ 山下 絹代	平成22年2月24日	甲第356号	博士(薬学)	シャルカールモハメド シャヒーーン SARKAR MD. SHAHEEN	平成22年9月17日
甲第321号	博士(薬学)	ナカムラ 中村 沙織	平成22年2月24日	甲第357号	博士(薬学)	キリーラ ピーター ガキオ Kirira Peter Gakio	平成22年9月17日
甲第322号	博士(薬学)	ミナト 湊 大志郎	平成22年3月19日	甲第358号	博士(薬学)	モハマド タウヒド ホサイン MD. Towhid Hossain	平成22年9月17日
甲第323号	博士(薬学)	マツオ 松尾 洋介	平成22年3月19日	甲第359号	博士(薬学)	ユ 諭 志強	平成22年9月17日
甲第324号	博士(薬学)	サトウカ 佐藤加代子	平成22年3月19日	甲第360号	博士(薬学)	サミュエル オセイ アサンテ Samuel Osei-Asante	平成22年9月17日
甲第325号	博士(薬学)	クロサキ 黒崎 友亮	平成22年3月19日	甲第361号	博士(薬学)	サドウ 佐道 紳一	平成22年9月17日
甲第355号	博士(薬学)	シャ 謝 維嬌	平成22年9月17日				

# 長 薬 同 窓 会 役 員

(平成22年6月)

## 本部役員

会 長	伊豫屋 偉 夫	昭和41年	東七長崎支店
副 会 長	山 中 國 暉	昭和43年	あおかた調剤薬局
"	中 村 博	昭和45年	大浦中央調剤薬局
"	中 村 珠 江	昭和51年	なかむら薬局
"	佐々木 均	昭和53年	医学部教授 附属病院薬剤部長
"	中 嶋 幹 郎	昭和57年	薬学部教授
監 査	木 下 敏 夫	昭和35年	
庶務幹事	岸 川 直 哉	平成10年	薬学部准教授
会計幹事	椛 島 力	平成4年	薬学部准教授
編集幹事	和 田 光 弘	平成4年	薬学部准教授
幹 事	高 良 真 也	昭和57年	こまち薬局
幹 事	伊 藤 潔	昭和59年	薬学部准教授
幹 事	福 留 誠	平成10年	薬学部助教

## 学年理事

昭和5～16年12月	小笠原 正 己	昭和42年	井 上 一 顕	平成1年	嶋 田 美 樹
昭和17～19年	谷 口 是 巨	昭和43年	山 中 國 暉	平成2年	山 本 隆 志
昭和20年	池 田 保 彦	昭和44年	中 村 和 子	平成3年	北 原 隆 志
昭和22年	田 崎 和 之	昭和45年	中 村 博	平成4年	椛 島 力
昭和23年	中 原 潜	昭和46年	大 西 裕 子	平成5年	森 本 仁 理
昭和24年	麻 生 忠 介	昭和47年	松 本 逸 郎	平成6年	岩 永 真 有
昭和25年	塚 崎 邦 彦	昭和48年	林 田 眞 二 郎	平成7年	中 尾 有 里
昭和26年	峰 唯 信	昭和49年	馬 場 満 輝	平成8年	大 脇 裕 一
昭和28年	吉 田 一 美	昭和50年	北 村 美 江	平成9年	平 留 文 亨
昭和29年	野見山 季 治	昭和51年	原 田 均 司	平成10年	福 留 誠 美
昭和30年	帆 士 辰 雄	昭和52年	池 崎 隆 司	平成11年	水 野 和 美
昭和31年	今 泉 貴 世 志	昭和53年	佐々木 均 久	平成12年	松 永 隼 人
昭和32年	長 田 雅 子	昭和54年	濱 崎 和 久	平成13年	兒 玉 幸 修
昭和33年	西 脇 金 一 郎	昭和55年	大 田 佳 史	平成14年	小 西 宏 規
昭和34年	松 尾 幸 子	昭和56年	山 口 正 広	平成15年	原 田 周 平
昭和35年	木 下 敏 夫	昭和57年	高 良 真 也	平成16年	原 田 規 子
昭和36年	武 田 成 子	昭和58年	宮 崎 幹 雄	平成17年	富 松 規 子
昭和37年	吉 田 研 次	昭和59年	中 村 忠 博	平成18年	永 井 潤 一
昭和38年	岡 邦 彦	昭和60年	塩 田 英 雄	平成19年	西 岡 雄 一
昭和39年	鈴 木 隆 治	昭和61年	本 多 隆	平成20年	筒 井 翔 一
昭和40年	松 村 祐 子	昭和62年	森 川 隆	平成21年	坂 野 綱 一
昭和41年	平 山 文 俊	昭和63年	神 山 朝 光	平成22年	西 建 也

院1～院5（昭和42年～昭和46年）新垣 光雄（昭和46年）  
 院6～院10（昭和47年～昭和51年）高橋 正克（昭和49年）  
 院11～院15（昭和52年～昭和56年）大木 豊（昭和54年）  
 院16～院20（昭和57年～昭和61年）中嶋 幹郎（昭和59年）  
 院21～院25（昭和62年～平成3年）本多 雅幸（平成1年）  
 院26～院30（平成4年～平成8年）富田 守（平成4年）  
 院31～院35（平成9年～平成13年）原田 祐樹（平成9年）  
 院36～院43（平成14年～平成18年）大山 要（平成14年）  
 院44～院49（平成19年～平成23年）山根 智子（平成19年）

## 長薬同窓会支部一覧

(平成22年12月)

長崎支部ぐびろ会	会 長	山 中 國 暉	(昭 43)
長 崎 県 北 支 部	支部長	今 泉 貴 世 志	(昭 31)
島 原 支 部	支部長	宮 崎 圭 介	(昭 31)
長 崎 県 央 支 部	支部長	平 山 文 俊	(昭 41)
佐 賀 支 部 若 楠 会	会 長	藤 戸 博	(院昭52)
福 岡 支 部 浦 陵 会	会 長	青 木 郁	(昭 38)
北 九 州 支 部	支部長	芥 野 岑 男	(昭 46)
大 分 支 部	支部長	野 尻 敏 博	(昭 48)
宮 崎 支 部 日 向 浦 陵 会	会 長	田 中 重 雄	(昭 45)
鹿 児 島 支 部	支部長	森 昭 雄	(昭 28)
熊 本 支 部	支部長	山 本 喜 一 郎	(院昭55)
山 口 支 部	支部長	若 松 輝 明	(昭 45)
広 島 支 部	支部長	品 川 龍 太 郎	(昭 44)
岡 山 支 部	支部長	歳 森 三 千 代	(昭 49)
山 陰 支 部	支部長	橋 本 覺	(昭 52)
四 国 支 部	支部長	井 上 智 喜	(昭 54)
近 畿 支 部	支部長	梶 野 繁	(昭 42)
東 海 支 部	支部長		
関 東 支 部	支部長	谷 覺	(昭 42)
沖 縄 支 部	支部長	藤 本 勝 喜	(昭 31)
北 海 道 支 部	支部長		

## 監査報告

会計幹事、伊藤潔氏立会いのもと、平成二十一年度に関する帳簿および預金通帳を詳細に監査した結果、記帳及び計算は妥当かつ正確なものであり、収支決算報告の通り相違ないことをご報告いたします。

平成

22年

4月

3日

監査

木下敏夫



## 新刊図書のご紹介

「クラゲに学ぶ ノーベル賞への道」 長崎文献社 定価2,520円  
下村 脩(昭26)

科学者としての冷静さ、執着心、探求心などが率直に語られた著者はじめての自伝

一家総出で、19年間に85万匹ものオワンクラゲを採取した結果がノーベル賞へ

もっとも重要な研究成果はオワンクラゲから発見したイクオリンとGFPである

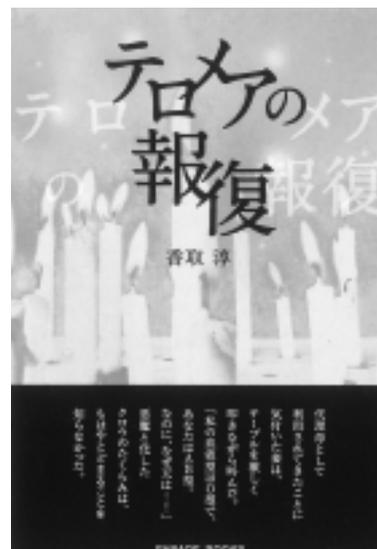
ふるさと長崎県への愛着と家族を思う心情があふれる感動的なものがたり



「テロメアの報復」 発売：星雲社 発行：パレード 定価1,260円  
香取 淳(本名：樋口宗司)(昭42)

製薬企業に長年勤務した著者が豊富な医学・薬学の知識と洗練された文章を駆使して、読者をサスペンスの世界に引き込む。

主人公のクロウは父の病気をきっかけに、己の出生に強い疑問を抱く。その疑問を解き明かしていくうちに、自分がクローン人間であるという事実直面する。彼は現実からの逃避や父への復讐を模索するが、やがて開き直って、未来永劫に生きる道を選んだ。しかし.....



全国の書店にてお求めください。

今後、同窓会報にて新しく創刊された卒業生の出版物を紹介いたします。出版された方は、同窓会事務局までお知らせください。

## 事務局で扱っている図書等

長薬同窓会49号でお知らせいたしましたが、在庫がありますのでご希望の方は事務局までお申し込みください。

「出島のくすり」九大出版会 定価1,400円(税別)を1,200円(送料込み)

日蘭交流400周年記念事業として、平成12年に長大薬学部教官により制作のもの。

「長薬100年のあゆみ」ビデオ(VHS)3,000円, DVD3,500円(送料込み)

貴重な懐かしい写真・映像を2時間にわたり収録

「長崎薬専歌集」CDまたはカセットテープ(楽譜・歌詞カード付き)1,500円(送料込み)

## 同窓会事務局だより

今年も残すところわずかとなりました。今年には日本全国酷暑のうえ、長い夏になりました。その夏、悲しいことに長薬同窓会事務局で長年に渡りお世話くださった大河内さんが亡くなりました。6年前に病気で倒れられてからも、新しい会報をお送りすると喜んでおられたと伺っていましたが、この会報をもう読まれる事もないと思うととても寂しい気持ちでいっぱいです。心からご冥福をお祈りいたします。また、私など足下にも及びませんが、大河内さんの後を引き継いで、お世話させていただいております。変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。

さて、今年には秋に同窓会を開催されたクラスも多く、締め切りまで時間がなく、お忙しい中で急ぎ原稿を作成いただきました。ご協力で深く感謝申し上げます。ご寄稿はいつでも受け付けますので、クラス会開催後は、時期に関係なく早めにご寄稿いただければ大変ありがたいと存じます。

なお、今回から作業場所の確保が難しくなった事もあり、会報等の発送を業者に依頼することになりました。行き届かない事もあるかと存じますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

武次郁子 記

### 編集後記

今年も長薬同窓会会員の皆様に多大な協力をいただき、第50号をお届けすることができました。特にNHK大河ドラマで長崎が注目を集め、改めて長崎にて同窓会を開催された会員の方々が多かったように思います。

一方、大河内さんの訃報という悲しい知らせもありましたが、追悼記事から大河内さんの在りし日をそれぞれ思い出していただければ何よりと存じます。

最後にお忙しい中、多くの原稿をお寄せいただきました会員の先生方に感謝申し上げます。

和田光弘 記

平成22年12月20日印刷  
平成22年12月24日発行

### 長薬同窓会報

編集 和田光弘  
発行 長薬同窓会

(郵便番号852 8131)  
所在地 長崎市文教町1-14 長崎大学薬学部内  
TEL 095-844-6383(直通)  
095-819-2471(ダイヤルイン)  
FAX 095-844-6383  
メールアドレス jimukyoku@choyaku.jp

(郵便番号850 0875)  
印刷所 長崎市栄町6-23 昭和堂ビル  
(株)昭和堂  
TEL095 821 1234



長崎大学薬学部 長薬同窓会